

法政大學講義録

山脇, 貞夫 / 岡, 八 / 水野, 鍊太郎 / 松浦, 鎮次郎

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

20

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

54

(発行年 / Year)

1904-11-11

(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
(毎月四回七八日十八日二十八日發行)

明治三十七年十一月十一日發行

特別法ノ二十

法政大學講義録

第百拾六號

法政大學發行



特別法第二十號目次

市制町村制 (自一四三至一五〇)

法學士 松浦鎮次郎

著作權 (自一三三至一五六) (完)

法學博士 水野鍊太郎

表紙及七目次 四頁

公證人規則 (自一六〇至一六九)

法學士 山脇貞夫

執達吏規則 (自一四五至一六六) (完)

法學士 岡八

表紙及七目次 八頁

雜報

○町村公共ノ事務及ヒ必要支出○版權法ニ依ル著作權ノ保護○懸賞討論會問題

稟告 本議院總發行日ヲ自今七日ニ變更ス

090
1903
5-20

第八節 市町村內ノ區

市町村內ノ區ト稱スルモノノ中ニハ或ハ獨立ノ人格ヲ有スルモノアリ或ハ單ニ一ノ行政區畫タルモノアリ又同性質ヲ有スル區ニ付テモ甲乙ニ依リ之ニ關スル法律上ノ規定ヲ異ニスルモノアリテ頗ル錯雜ヲ極ムルノミナラス人格ヲ有スル區ニ關シテモ學者ノ論スル所必スシモ一定セス區ノ問題ハ實ニ市町村制中ノ難問タリ今區ノ性質ニ依リ分類シテ之ヲ説明スレハ區ニハ(一)人格ヲ有セス全ク市町村ノ行政區畫タルモノト(二)獨立ノ人格ヲ有シ權利ノ主體タルモノノ二種アリ(實際ハ二種ノ區カ各其區域ヲ異ニシテ存在スルニ非ス却テ殆ト總テノ場合ニ於テ二種ノ區ノ區域ハ相一致スルモノタルヲ注意スヘシ)

(一) 市町村ノ行政區畫タル區

市町村ノ行政區畫タル區ヲ分テ更ニ(イ)一般ニ處務便宜ノ爲ニ設クルモノ(ロ)營造物ノ負擔區域タルモノ(ハ)市町村立小學校又ハ市町村立實業學校ノ設置費用ニ關スル負擔區域タルモノノ三トス

市制町村制 自治體タル市町村 市町村內ノ區

(4) 一般ニ處務便宜ノ爲ニ設タル區

市ハ處務便宜ノ爲メ市參事會ノ意見ヲ以テ之ヲ數區ニ分ツコトヲ得又區域廣
濶人口稠密ナル町村ハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分ツコ
トヲ得之ヲ爲ニ區長其他ノ機關ヲ置キ得ルコト並ニ東京市大阪京都市ノ區
及人口二十萬以上ノ市ノ區ニ關シテハ多少ノ特例アルコトハ前已ニ市町村ノ
機關ヲ説明スル際之ヲ述ヘタリ此處ニ謂フ所ノ區ハ即チ之ニ外ナラヌ此種ノ
區ハ區團體トシテ獨立ノ人格ヲ有セス單ニ市町村ノ行政區畫ニ過キス從テ區
長其他ノ機關カ掌ル所ノ事務ハ市町村行政ノ補助執行ニ外ナラサルモノトス
唯法ノ特別ノ規定ニ依リ東京市大阪京都市ノ區及人口二十萬以上ノ市ノ區
ニ於テハ區長其他區ノ吏員ハ法律命令ニ定ムルモノノ外府縣知事ノ命ヲ承ケ
若ハ其委任ニ依リ區内ニ關スル國及府縣ノ行政事務ヲ掌ルモノトス

市制(ロ) 營造物ノ負擔區域タル區ハ市制第百十三條町村制第十四條ニ於テ之ヲ
營造物ノ負擔區域タル區ノコトハ市制第百十三條町村制第十四條ニ於テ之ヲ
規定セリ即チ市制ニ在テハ市内ノ一區ニシテ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造

物ヲ設ケ其區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ云云トイフ町村制
ニ在テハ町村内ノ區第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニ
シテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ
設ケ其一區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ云云トイフモノ是ナ
リ此中特別ニ財產ヲ所有スル區ノコトハ別ニ之ヲ論スヘク此處ニ論セシトス
ル區ハ市町村内ノ一部ニシテ營造物ヲ設ケ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルモノ
ノミヲ意味スルナリ此種ノ區ノ性質ニ關シテハ學者ノ論スル所必スシモ一定
セス成ハ之ヲ以テ營造物ノ設置ヲ目的トセル一種ノ公法人ナリトナス者アリ
ト雖モ法文ニ於テ(第九十九條)記載シ以テ此區カ第九十九條ノ區ニ外ナラザ
ルコトヲ規定シ而シテ所謂第九十九條ノ區ハ單ニ市町村内ノ一部ニ於テ專ニ
使用スル市町村ノ營造物ノ費用負擔區域ヲ示シタルモノニシテ獨立ノ人格ヲ
有スル區ヲ意味スルニ非サルコトハ明ナルカ故ニ(第九十九條)ハ一區ニ所有
財產アルトキハ云云ト規定スレトモ此レハ偶營造物ノ負擔區域ト財產ノ主體
タル區トカ其地域ヲ一ニスル場合ニ付テ規定シタルモノニシテ營造物ノ負擔

區域カ常ニ財産ノ主體トシ獨立ノ人格ナルコトヲ意味セルニハ非ス此處ニ謂フ所ノ區ハ即チ一箇ノ費用負擔區域ニ過キサルモノナリトイハサルヘカラス如斯ク此區ハ獨立ノ人格者ニ非ス此區ニ於テ設置費用ヲ負擔セル營造物ハ即チ市町村ノ營造物ナルカ故ニ之ニ關シ必要ナル費用ヲ義務者ニ賦課スルカ如キコトハ當然市町村會ノ議決ヲ經サルヘカラス然ルニ地方ニ由リテハ往往全市町村ノ利害ト市町村内ノ一部分ノ利害トハ相抵觸スルコトアリ少數者カ多數者ノ爲ニ壓倒セララルカ如キコトアルヲ以テ法ハ特ニ規定ヲ設ケ市ニ在テハ府縣參事會ハ市會ノ意見ヲ聞キ町村ニ在テハ郡參事會ハ町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ營造物ニ關スル事件ヲ議決セシムル爲メ區會又ハ區總會ヲ設タルヲ得ルコトトナセリ而シテ區會又ハ區總會ノ會議ニ關スル規則區會議員ノ選舉資格選舉方法並ニ議員ヲ名譽職トナスヤ否ヤ等ノコトハ一ニ條例ニ於テ之ヲ規定スヘキモノニシテ之ニ關シテハ市町村會及市町村會議員ニ關スル例ヲ準用スルコトヲ得ルナリ又右ノ營造物ニ關スル行政事務ニ付テハ其出納及會計ノ事務ヲ市町村一般ノ出納及會計事務ト分別スヘキノ外市參事會町村

長ニ於テ市町村行政ニ關スル規定ニ依リ之ヲ管理スヘキモノトス故ニ特ニ區ノ營造物ノ事務ニ關シ市參事會町村長ノ補助機關タル委員ヲ置キ得ルカ如キハ勿論ナリトス前已ニ述フル如ク此種ノ區ノ事務ハ全市町村ノ事務ニ外ナラサルカ故ニ市町村ニ於テ區ノ營造物ノ修築保存ノ爲ニ區民ニ對シテ賦課スル稅ハ市町村稅タリ同一ノ目的ノ爲ニ募集スル公債ハ市町村ノ公債ナリ區ノ事務ヲ掌ル議員委員ノ如キハ市町村ノ機關タルナリ

(ハ) 市町村立小學校及市町村立實業學校ノ負擔區域タル區即チ學區

地方學事通則ハ市町村ハ勸令ノ規定スル所ニ依リ教育事務ノ爲メ之ヲ數區ニス分畫スルコト及其區カ財産又ハ營造物ノ爲ニ存在セル區ニシテ已ニ區令又ハ區總會ノ設ケアルモノト其區域ヲ同シクセサル場合ニハ特ニ其區ノ爲ニ市制第百十三條町村制第百十四條ノ規定ニ從ヒ區令又ハ區總會ヲ設タルヲ得ルコトヲ規定シ且一區若ハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若ハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業ヲナス者ニ於テ設立維持ノ費

用ヲ負擔スヘク若シ其區カ財産ヲ有スル區ト地域ヲ同シタスル場合ニハ先ヅ其財産ヨリ生スル收入ヲ以テ右ノ費用ニ充テヘキコトヲ規定セリ所謂勸令ノ規定トシテハ小學校令第十一條及第十四條ニ於テハ府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ關係市及區ノ意見ヲ聞キ市內ノ一區若ハ數區ニ對シ又ハ市ヲ分畫シテ數區トナシ其一區若ハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ノ爲メ其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得郡長ハ町村ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所數箇所アルトキ又ハ其設置スヘキ尋常小學校ト兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所トアルトキハ關係町村及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受ケ町村內ノ一區若ハ數區ニ對シ又ハ町村ヲ分畫シテ數區トナシ其一區若ハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔又ハ兒童教育事務委託ノ爲メ其使用スヘキ小學校ヲ指定スルヲ得ルコト並ニ同様ノ手續ヲ經テ之ヲ止ムルヲ得ルコト及市町村ハ市町村內ノ區ノ負擔ヲ以テ高等小學校ヲ設置スルヲ得ルコトヲ規定シ實業學校令第五條ニ於テハ市町村ハ實業學校ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔

ノ爲メ區ヲ設クルヲ得ルコトヲ規定セリ此處ニ舉クル所ノ區ハ皆獨立ノ人格ヲ有スルモノニ非スシテ純然タル營造物費用負擔區域ニ過キス區ノ負擔ヲ以テ設置スル小學校實業學校ハ市町村立ノ學校ニシテ區立ノ學校ニ非ス其學校ヲ組成スル校舍敷地器具等ハ市町村ノ財産ニシテ區ノ財産ニ非ス區ト學校トノ關係ハ一方ニ於テ區民カ其學校ノ設立維持ニ必要ナル費用ヲ負擔シ一方ニ於テ其學校カ區民ノ專用ニ供セラルルニ止マリ其以上ニ區カ學校ニ對シテ何等ノ權利ヲモ有スルニ非ス故ニ一旦定メタル區ノ負擔ヲ廢シ全市町村ヲシテ學校ノ設立維持ヲ負擔セシムル場合ニ於テハ以前區ノ負擔ヲ以テ設ケタル學校ノ校舍敷地校具等ハ其學校ノ組成分子トシテ當然全市町村ノ爲ニ使用セララルルニ至ルモノナリ人或ハ區ノ負擔ニ依ル學校ノ校舍等ヲ以テ其區ノ財産ナリトシ區ノ負擔ヲ廢スル場合ニ於テ學校ノ校舍等ヲ全町村ノ爲ニ用キントスルニハ區ノ承諾ヲ得サルヘカラスト論スル者アレトモ是レ學校ノ負擔區ヲ以テ人格者タリ財産權ノ主體タルモノナリトナスヨリ生スル結果ニシテ其誤レルヤ多言ヲ要セサルナリ

小學校ノ負擔區域タル學區ニ於テハ教育事務ノ爲メ市町村條例ノ規定ニ依リ其區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得學務委員ニハ市町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス學務委員ヲ名譽職トスルヤ否ヤ等ノコトモ一ニ條例ノ定ムル所ニ依ル

此種ノ區ノ爲ニ區民ニ對シテ賦課スル稅ハ市町村稅タリ區ノ爲ニ募集スル公債ハ市町村ノ公債タルコト及區ノ事務ヲ掌ル所ノ區會議員區學務委員等ハ市町村ノ機關タルコトハ前已ニ營造物費用ノ負擔區ニ付テ述ヘタルト同一ナリ町村學校組合ニ於テモ亦小學校及實業學校ノ設立維持ノ爲メ學區ヲ設クルコトアリ之ニ關スル規定其區ノ性質ハ總テ市町村ノ學區ニ於ケルト同シ

(二) 人格者タル區

人格者タル區ヲ分テ更ニ(1)一般市町村內ノ財産區及(2)東京市、大阪市、京都市ノ區トス

(1) 一般市町村內ノ財産區

一般市町村內ノ財産區ノコトハ市制百十三條、町村制百十四條ノ規定セル

スルコトヲ得サルコト爲ル然レトモ著作權ハ他ノ財産ノ如ク之ヲ國庫ニ歸セシムル必要ナク相續人ナキ場合ニハ公有ニ歸セシメ世間一般ノ人ヲシテ自由ニ複製セシムルヲ可トス故ニ我著作權法第十條ニ於テハ相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ストノ規定ヲ設ケ此主旨ヲ明カニセリ

第十一章 僞作

僞作トハ著作權ヲ侵害スル不法行爲ノ謂ナリ著作權ハ前述シタル如ク財産權ト思想權トノ混成權利ナルカ故ニ此等ノ權利ヲ侵害スル行爲ハ總テ僞作ナリ而シテ著作權ハ私法上ノ權利ナルヲ以テ之ヲ侵害スル行爲ハ民法ノ所謂不法行爲ニシテ著作權法ニ特別ノ規定ナキ限ハ民法不法行爲ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノナリ(第二九條)故ニ著作權ノ許諾ナクシテ其文書圖畫ヲ複製シ又ハ演劇脚本、樂譜ヲ興行シタルトキハ著作權ノ侵害ニシテ之ニ因リテ著作權者ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償セサルヘカラス此ノ如ク他人ノ著作物ヲ許諾ナクシテ複製シタルトキハ著作權ノ侵害即チ僞

作ト爲ルモ公益上ノ理由ヨリ此原則ニ例外ヲ設ケ即チ著作權法第三十條ノ場合合是ナリ同條ニ依レハ他人ノ著作物ヲ複製シテ偽作ト看做サレサル場合六アリ

第一 發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製スルコト 例ヘハ娛樂ノ爲メ又ハ練習ノ爲メニ他人ノ文書圖畫ヲ模寫スルカ如キ又ハ學生カ學校ニ於テ教師ノ講義ヲ筆記スルカ如キ是ナリ而シテ此場合ニ該當スルニハ左ノ二條件ヲ要ス

(一) 發行スルノ意思ナキコト 故ニ展覽ニ供スルノ目的ヲ以テ他人ノ圖畫ヲ模寫シ又ハ出版スルノ意思ヲ以テ他人ノ演說ヲ筆記シタルトキハ縱令之ヲ發行セサルモ偽作ト爲ルナリ蓋シ發行ノ意思アルコト明カナルトキハ他人ノ著作權ヲ侵害スルモノト推定シ得スルルヲ以テナリ但意思ノ證明ハ極メテ困難ナレハ實際ニ於テハ未發行ノ場合ニシテ偽作ト爲ル場合ハ甚タ稀ナルヘシ

(二) 器械的又ハ化學的方法ニ依ラサルコト 器械的又ハ化學的方法ニ依ル

複製トハ例ヘハ印刷ニ付シ寫眞ニ撮ルカ如キ場合ヲ謂フモノニシテ單ニ手寫スルカ如キハ器械的又ハ化學的方法ニ依ル複製ニ非ス而シテ手寫ニ依ル複製ハ偽作ト爲ラサルモ器械的又ハ化學的方法ニ依ル複製ハ偽作ト爲ルナリ蓋シ手寫ニ依リテハ實際多數ノ複製ヲ爲スコト困難ナルヲ以テ著作權ヲ侵害スルコト稀ナルヘキモ印刷又ハ寫眞ニ依ル複製ハ容易ニ多數ノ複製ヲ爲シ得ヘキヲ以テ著作權ヲ侵害スルノ虞アルヲ以テナリ

第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコト 例ヘハ參照

ノ爲メニ他人ノ著書ヲ引用シ又ハ他人ノ說ヲ駁撃スル爲メニ其人ノ論文ヲ節録スルカ如キ場合ヲ謂フ斯ル場合ニハ著作權ヲ要セスシテ其著作物ヲ複製スルコトヲ得ルナリ是レ亦複製ニ外ナラスト雖モ斯ル複製ハ著作權ノ利益ヲ害スルモノニ非サレハ之ヲ偽作ト看做スノ必要ナキナリ然レトモ其節録引用ハ正當ノ範圍内ニ於テ爲スヲ要ス正當ノ範圍内トハ自己ノ說ヲ確メ又ハ他人ノ說ヲ駁スルニ必要ナル程度ト云フノ謂ナリ故ニ無關係ノ論文ヲ引用シ又ハ不必要ニ長ク抄録スルカ如キハ正當ノ範圍ニ非シテ引

用節録ヲ名トシ他人ノ著作物ヲ複製スルノ處アルヲ以テ斯ル場合ニハ僞作タルヲ免レサルナリ然レトモ其節録引用カ正當ノ範圍内ナルヤ否ヤハ事實問題ナレハ各場合ニ依リテ之ヲ決定セサルヘカラス故ニ之ヲ決定スルハ全ク裁判官ノ認定ニ在リテ存スルナリ

第三 普通教育上ノ修身書及ヒ讀本ノ目的ニ供スル爲メニ正當ノ範圍内ニ於テ拔萃蒐輯スルコト 例ヘハ小學校ノ教科書ニ用フル修身書ニ名家ノ嘉言ヲ蒐輯シ又ハ讀本ニ學者ノ文章ヲ拔萃スルカ如キ是ナリ而シテ此場合ニ該當スルニハ左ノ三條件ヲ要ス

(一) 修身書又ハ讀本ノ目的ニ供スルコト 即チ學校ノ教科書トシテ用フル修身書又ハ讀本ニシテ此以外ノ目的ニ供スル爲メニスル拔萃蒐輯ハ僞作ト爲ルナリ

(二) 普通教育上ノモノタルコト 茲ニ普通教育ト云フハ高等教育ニ對シテ謂フモノニシテ修身書及ヒ讀本ト云ヘハ多クハ普通教育上ノモノタルコトハ勿論ナレトモ場合ニ依リテハ高等教育上ノモノナキヲ保セス故ニ特

ニ普通教育上云云ノ文字ヲ加ヘ之ヲ限定シタルナリ又對テは僞作ト云フハ

(三) 正當ノ範圍内ニ於テスルコト 修身書又ハ讀本ニ必要ナル範圍内ニ於テ拔萃蒐輯スルコトヲ要ス而シテ正當ノ範圍内ナルヤ否ヤハ前述シタル如ク事實問題ニシテ裁判官ノ認定ニ在リテ存ス

以上ノ條件ヲ具備シタルトキハ其複製ハ僞作ト看做ナス是レ全ク普通教育普及ノ必要ニ出テタルモノニシテ修身書又ハ讀本ヲ編輯スルニハ成ルヘク多クノ著作物ヨリ之ヲ拔萃蒐輯セサルヘカラス然ルニ一其著作家ノ許諾ヲ經サルヘカラスト爲ストキハ煩雜ニ堪ヘスシテ完全ナル教科書ヲ得ルコト能ハス又一方ニ於テハ普通教育ニ用フル修身書又ハ讀本ハ著作家ノ文章ヲ拔萃スルモ敢テ原著者ノ利益ヲ害スルコトナキナリ歐洲諸國ノ著作權法ニモ教育用ノ書物ニハ拔萃ノ自由ヲ認メタル例多シ然レトモ此自由ハ成ルヘク狭キ範圍内ニ限定スルヲ要ス是レ我著作權法ニ於テハ普通教育上ノ修身書又ハ讀本ニ特ニ限定シタル所以ナリ又ハ

第四 文藝學術ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スル

コト 例へハ詩ノ一句歌ノ一節ヲ演劇脚本ノ文句中ニ入レ又ハ他人ノ歌ヲ樂譜ニ充ツルカ如キ是ナリ此場合モ他人ノ著作物ノ複製ニ外ナラスト雖モ斯ル複製ハ原著作者ノ利益ヲ害セス而シテ脚本又ハ樂譜ノ著作ニハ必要ナルヲ以テ特ニ之ヲ偽作ト看做ササルナリ

第五 文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト 例へハ歐米紀行ノ著者カ其説明ノ爲メニ巴里倫敦ノ寫眞ヲ挿入シ又ハ歴史畫ヲ説明セン爲メニ日本外史ノ文句ヲ挿入スルカ如キ是ナリ斯ル場合ニハ他人ノ著作物ヲ複製スルハ單ニ其一小部分ニ過キヌシテ原著作者ノ利益ヲ害セサルノミナラス文藝學術上ノ著作物ト美術上ノ著作物ト相待チテ一ノ完全ナル著作物ヲ成スモノナルカ故ニ斯ル複製ハ偽作ト看做ササルナリ然レトモ其複製ハ單ニ自己ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ必要ナルモノタルコトヲ要ス故ニ前者ノ場合ニハ文藝學術ノ著作物カ主ニシテ美術上ノ著作物ハ單ニ之ヲ説明スルノ材料タルニ過キサルコト又後者ノ場合ニハ

美術上ノ著作物カ主ニシテ文藝學術上ノ著作物ハ之ヲ説明スルニ必要ナル部分ニ止マルコトヲ要ス是レ固ヨリ例外ノ規定タルヲ以テ複製ノ範圍ハ極メテ嚴密ニ解釋セサルヘカラス

第六 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作リ又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作リ又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルハ同一ノ思想ヲ異ナリタル技術ニ由リテ表ハスモノナレハ複製ニ外ナラスト雖モ圖畫ト彫刻物模型トハ全ク別種ノ技術ニ屬スルモノニシテ其智能の勢力ハ各異ナルモノナレハ一ヲ以テ他ヲ製作スルニ必スシモ偽作ヲ以テ論スルヲ要セス是レ本號例外ノ規定アル所以ナリ

以上列舉シタル六ノ場合ニ於ケル複製ハ偽作ト看做ササルカ故ニ原著作者ノ許諾ナクシテ隨意ニ複製スルコトヲ得ト雖モ其複製ニハ出所ヲ明示スルコトヲ要ス即チ原著作者何某ノ著書又ハ畫ヲ複製被摹シタル旨ヲ明記スルカ如シ是レ原著作者ヲ保護スル所以ニシテ又同時ニ他人ノ著作物ノ複製ヲ妄ニ爲サシメサルノ趣旨ニ出タルガリ而シテ若シ出所ノ明示ヲ爲サヌシテ複製シタ

ルトキハ偽作トシテ民事刑事ノ制裁ヲ受タルヲ免レサルヲ求メスニ對シテ以上六ノ場合ニ於ケル複製ヲ偽作ト看做ササルハ發行シタル著作物ニ關シテノミナリ故ニ未ダ發行セサル著作物ニ付テハ前記ノ場合ト雖モ總テ偽作ト爲ルナリ蓋シ發行セサル著作物ハ著作者カ未タ之ヲ發行スルノ意思ヲ決定シタルモノニ非サレハ他人ハ一字一句ト雖モ著作者ノ許諾ナクシテ之ヲ複製スルコトヲ得サルナリ然ルニ既ニ發行シタルモノハ之ヲ公衆ノ使用ニ供シタルモノナレハ公衆ニ一定ノ制限ノ下ニ於テ之ヲ複製スルモ敢テ原著作者ノ利益ヲ害セサルナリ

以上ハ他人ノ著作物ノ複製ニシテ法律カ特ニ偽作ト看做ササル場合ナリ然ルニ之ト反對ニ著作權侵害ノ行爲即チ著作物複製ノ專權ヲ侵害シタル行爲ニ非ナシテ法律カ特ニ偽作ト同一ニ看做ス場合アリ偽作物ヲ輸入スルコト第三一條及ヒ練習用著作物ノ解答書ヲ發行スルコト第三二條是ナリ

(一) 偽作物ノ輸入 著作權法第三一條ニ曰ク「以テ偽作物ヲ輸入スル者ハ偽作者ト看做ス」帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ偽作物ヲ輸入スル者ハ偽作者ト看

做ス

偽作物ヲ輸入スルハ著作物ノ複製ニ非スト雖モ著作者ノ利益ヲ害スル點ニ至リテハ全ク同一ナリ故ニ我著作權法ニ於テハ特ニ明文ヲ設ケテ之ヲ偽作ト看做セリ而シテ輸入カ偽作タルニハ左ノ條件ヲ備フルコトヲ要ス

(イ) 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ輸入スルコト 故ニ發賣頒布ノ目的ナクシテ輸入スルハ偽作ヲ以テ論スルノ限ニ在ラス而シテ此目的ノ有無ハ固ヨリ事實問題ナリト雖モ書籍商カ數百部ノ偽作書ヲ輸入スルカ如キハ發賣ノ目的ヲ以テ輸入セルモノト推定シ得ラルルナリ然ルニ予カ單ニ一部ノ書冊ヲ輸入スルカ如キハ斯ル目的ヲ有スト認ムルコトヲ得ス之ヲ要スルニ發賣頒布ノ目的ヲ以テスルニ非サレハ決シテ原著作者ノ利益ヲ害スルコトナキヲ以テ特ニ之ヲ偽作者ト看做スノ必要ナキナリ

(ロ) 偽作物タルコト輸入者ノ偽作者タルニハ其輸入シタル著作物カ我著作權法ニ依リ偽作物タルコトヲ要ス蓋シ著作權ノ保護ハ著作者ヲシテ著作物複製ノ專權ヲ有セシメ他人ヲシテ之ヲ僞サシメサルニ在ルカ故ニ縱令我

國ニ於テ偽作セサルモ外國ニ於テ偽作シタルモノヲ我國ニ輸入シ之ヲ發賣頒布スルトキ等シタ著作者ノ利益ヲ害スルモノナシハ之ヲ禁スルニ非レハ著作者ノ權利ヲ保護スルコトヲ得ス是レ偽作物ノ輸入ヲ著作權侵害行為トシテ之ヲ制裁スル所以ナリ

(二) 練習用著作物ノ解答書 第三十二條ニ曰ク「練習用著作物ノ解答書ヲ發行スル者ハ偽作者ト看做ス此規定ハ練習用著作物ノ解答書ヲ發行スルノ權利ヲ其著作人ニ留保セシタルニ在リ從來學校等ノ教科書ニ數學ノ教科書ニ多シニ練習用ノ爲メ問題ヲ掲タルアリ而シテ其問題ニ對シ解答書ヲ作ルモノノ新奇ノ著作ニ外ナラズ雖モ若シ其問題ヲ掲出シタル著作人ノ許諾ナクシテ解答書ヲ作リ得ルモノトキハ斯角練習用ニ供スル爲メニ著作シタル問題ヲ他人カ自由ニ解答書ヲ作リ之ヲ發行スルモ至ル練習ノ目的ヲ達スルモノ能ハサルヲ以テ其解答ハ或ハ原著作者ノ意ニ反スルヲ解答タルハ其ハ隨テ著作人ニ有形無形ノ損害ヲ與フルコトナキヲ保セス是レ我著作權法ニ於テ

特ニ問題ノ解答書ヲ發行スルノ權利ヲ原著作者ニ留保シ無許諾ニテ發行シタル者ヲ偽作者ト看做シタル所以ナリ

著作權ノ侵害ハ私權ノ侵害タルヲ以テ之ニ因リテ損害ヲ生ゼシタルトキヤ民法不法行為ノ原則ニ依リ之ヲ賠償スルノ責ニ任ス民法第七〇九條而シテ不法行為タルニハ故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタルコトヲ要ス故ニ故意又ハ過失ナキ場合ニハ不法行為ヲ以テ之ヲ論スルヲ得ス隨テ縱令他人ニ損害ヲ與フルモ之ヲ賠償スルノ責任ナシ然ルニ著作權ニ關シテハ故意又ハ過失ナクシテ他人ノ著作權ヲ侵害スルコトアリ例ヘハ父カ他人ノ著作物ヲ翻寫シ之ヲ恰モ自己ノ著作物ノ如ク保存シ置キテ死亡シタルニ其子ハ父ノ真正ノ著作物ナリト信シ且他人ノ著作物ヲ翻寫シタルハトナキヤ否ヤノ點ニ關シ十分ノ調査ヲ盡シタル後父ノ遺稿トシテ發行シタル場合ノ如キ子ノ側ヨリ之ヲ觀ルトキハ善意ニシテ且過失ナク偽作ヲ爲シタルモノナリ隨テ民法不法行為ノ原則ヲ適用スルコトヲ得ス故ニ縱令被翻寫者タル著作人ニ於テ損失ヲ受タルモ之カ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス然レトモ之ニ對シ何等救済ノ途ヲ與ヘテ

ルハ公平ヲ失フノ嫌アルヲ以テ我著作權法ニ於テハ斯ル場合ニハ不當利得ノ主義ニ基キ其偽作物發行ノ爲メニ利益ヲ受ケ他人ノ損失ヲ及ホシタルトキハ其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ受益者ハ之ヲ返還スルノ義務ヲ負フトセリ(第三三條)

著作權者ハ偽作者ニ對シ損害賠償ヲ要求スルノ權利ヲ有スルト同時ニ發生スヘキ損害ヲ防止セシメ爲メニ偽作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ノ差止若クハ差押又ハ興行ノ差止ヲ裁判所ニ申請スルコトヲ得第三六條此申請權ハ著作權者ニ取リテハ最も必要ナル權利ニシテ一タヒ偽作物ニシテ頒布セラレタルトキハ金錢ヲ以テ到底賠償スルコト能ハサルカ如キ損害ヲ生シ且偽作者ハ通常無實力者タルコト多キヲ以テ被害者ニ於テ損害賠償權ヲ有スルモ何等ノ實益ヲ受クルコト能ハサルハ往々見ル所ノ事實ナリ故ニ法律ハ著作權者ニ偽作物頒布ノ差止又ハ差押ノ申請ヲ爲スコトヲ得セシメ其受クル損害ヲ防禦ズルノ手段ヲ與ヘタリ

第十二章 罰則

偽作ニ對スル刑事上ノ制裁其他著作權法違反ノ罰ハ第三十七條以下ニ規定シアリテ特ニ説明ヲ爲スヲ要セス只著作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者第四〇條並ニ著作權ノ消滅シタル著作物ヲ改竄シ又ハ其題號ヲ改メ若クハ著作者ノ氏名稱號ヲ隱匿詐稱シテ發行シタル者第四一條ニ對スル制裁ニ關シテハ茲ニ一言スルヲ要ス著作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行スル者ハ著作權ノ侵害ニ非ス何トナレハ是レ他人ノ著作物ヲ複製シタルニ非スシテ單ニ他人ノ氏名ヲ濫用シタルニ外ナラザレハナリ故ニ嚴正ニ論スルトキハ著作權法ニ斯ル規定ヲ置クハ其當ヲ得タルモノニ非サルヘシ然レトモ我國ニ於テハ未タ氏名稱ノ存在ヲ認メタル法規ナキヲ以テ他人ノ氏名ヲ濫用シタル場合ニ之ニ對スル制裁ナク隨テ著作物ニ關シテモ學者ノ名ヲ濫用シ實際其人ノ著作ニ非サルモノニ其本人ノ氏名ヲ附シ之ヲ發行スルモノ民事上刑事上之ニ對シ何等救済ノ途ナシ然ルニ其人ノ著作ニ非サルモノヲ其

人ノ著作ナリトシテ之ヲ發行スルニ面社會ニ對シ詐欺發行ヲモニシテ其面其人ノ人格名譽ヲ毀損スルモノナルヲ故ニ公益上之ニ對シ制裁ヲ付スルヲ必要アリ而シテ其行為ハ稍々偽作ニ等シキモノナルヲ以テ著作權法ニ於テ之ニ對スル制裁ヲ規定シタルナラン

著作權ノ消滅シタル著作物トハ法定ノ期間ノ經過ニ因リ所謂公有ニ歸シタル著作物ノ謂ニシテ斯ル著作物ハ何人モ自由ニ之ヲ發行スルコトヲ得然レトモ自由ニ發行スルコトヲ得ルハ單ニ原著著作物ヲ其儘ニ翻刻シ得ルト云フニ過キスシテ之ヲ改竄修正シテ發行スルコトヲ許シタルニ非ス然ルニ著作權ノ消滅シタル著作物ハ最早權利者ナキ故ニ之ヲ改竄修正シテ發行スルモノ何人モ之ニ對シ異議ヲ申立ツル者ナキヲ以テ斯ル行為ヲ爲ス者ナキヲ保セス而シテ之ヲ取締ルノ規定ナキトキハ著作作者ノ意ニ非サルノ修正ヲ爲シ之ヲ公ニスル者アルヘク隨テ一面著作作者ノ人格權ヲ害シ一面著作作者ノ真正ノ意思ニ非サルモノヲ社會ニ對シ表示スルノ結果ヲ生スルヲ以テ斯ル行為ヲ爲ス者ヲ制裁スルコト必要ナリ是レ著作權法第四十一條ニ於テ著作權ノ消滅シタル著作物ト雖

モ之ヲ改竄シテ著作作者ノ意ヲ害シ又ハ其題號ヲ改竄若テハ著作作者ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行スル者ヲ罰ス所以ナリ

偽作ニ對スル罪ハ歐米諸國ノ著作權法ニ於テモ多ク之ヲ親告罪ト爲ス我著作權法モ亦之ニ倣ヒタリ第四四條蓋シ著作權ハ前述シタル如ク財產權ト人格權トノ混成權利ナリ隨テ著作權ヲ侵害ハ財產權ノ侵害タルト同時ニ人格權ノ侵害タリ故ニ其侵害ニ對シ刑事ノ訴追ヲ爲スト否トハ著作權者ノ意思ニ放任スルヲ以テ正當ナリトス恰モ刑法ニ於テ誹毀ノ罪ヲ親告罪ト爲シタルト同一ナリ人格權ノ側ヨリ之ヲ觀レハ此說一理ナキニ非スト雖モ財產權ノ側ヨリ之ヲ論スルトキハ其理由ノ根據ヲ見出スコト能ハス

親告罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テテ罪ヲ論スルモノナリ然ルニ第三十八條ノ場合ハ著作作者カ被害者タルヲ以テ著作作者ノ生存間ハ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ著作作者ノ死亡後ニ於テハ被害者トシテ告訴ヲ爲ス者ナキカ故ニ此場合ニハ之ヲ親告罪ト爲スコトヲ得ス若シ此場合ニモ仍ホ親告罪ト爲スニキヤ結局犯罪者ヲ罰止ムヲ止ムに至ル是レ第三十八條ノ場合ニ於テ著作作者ノ死亡シタ

又第四十條乃至第四十二條ハ嚴正ニ論スルモ其ハ僞作ニ對スル罪ニ非シルガ故ニ之ヲ親告罪ト爲スノ理由ナキカ故ニ之ヲ除外シタルナリ

第十三章 外國人ノ著作權保護

外國人ノ著作權ニ關シテハ從來我國ニ於テハ何等ノ保護ヲ與ヘナリシカ現行著作權法ニ於テハ内外人平等主義ヲ認メ外國人モ一定ノ條件ノ下ニ内國人ト同一ニ著作權ノ保護ヲ享有スルニ至レリ(第二八條外國人ノ著作權保護ニ關シテハ歐米諸國ノ法制ヲ三ノ主義ニ分類スルコトヲ得)

(一) 内外人平等主義 此主義ハ著作權ノ保護ニ關シテハ全然内外人ヲ同一視シ其間ニ何等ノ區別ヲ立テス即チ著作者ノ國籍如何ト著作物發行地ノ何處タルトモ問ハス總テ平等ニ之ヲ保護スル主義ナリ佛國千八百五十二年三月二十八日法律白耳義同國著作權法第三八條ハ此主義ヲ採ル獨逸著作權法ハ獨逸人ニ對シテハ其著作物發行地ノ何處タルヲ問ハス總テ之ヲ保護スルモ

外國人ニ對シテハ獨逸國內ニ店舗ヲ有スル發行者ニ依リテ其著作物ヲ發行シタル場合ニ限リ之ヲ保護ス(同國著作權法第六一條)匈牙利著作權法モ亦殆ト之ト同一ノ規定ヲ存シ且少クモ十年以來匈牙利國ニ住居セル外國人ハ内國人ト同一ノ保護ヲ享有スルノ規定アリ(同國著作權法第七九條故ニ此等ハ佛國白耳義等ノ如キ純然タル内外人平等主義ニ非ス)

(二) 排外國人主義 此主義ハ内國人ノ著作權ハ著作物發行地ノ何處タルヲ問ハス之ヲ保護スルモ外國人ノ著作權ハ縱令自國內ニ於テ發行シタルモノニテモ之ヲ保護セス但他國ニテ自國著作者ノ權利ヲ保護スル場合ニハ自國ニ於テモ其國著作者ノ權利ヲ保護スト爲ス立法例モアリ此主義ヲ採用スル國ハ「ボリピア」(同國著作權法第九條西班牙)(同國著作權法第二二條希臘同國刑法第四三三條墨西哥同國民法第一五二條「モナコ」(同國著作權法第三三條)葡萄牙同國民法第五七八條北米合衆國第四九五二條第四九七一條)アリ

(三) 相互主義 此主義ハ所謂相互主義ニテ外國ニテ同國著作者ヲ保護スル場合ニハ自國ニ於テモ其外國著作者ヲ保護スルトノ主義ナリ此主義ヲ採ル國

（三） 埃太利同國著作權法第三九條丁扶同國著作權法第二三條英國國際關係著作權法伊太利同國著作權法第四條チリハ國ニモ同國著作權ニ關シタル條約ニ由我著作權法ハ前記諸國ノ立法例ヲ研究シ外國人ノ著作權ニ關シタル條約ニ由リテ之ヲ定ムヘキモノトシ條約ニ別段ノ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其著作物ヲ發行シタル者ニ限リ内國人ト同一ニ保護スヘキモノトセリ故ニ寧ロ第一ノ主義ニ屬スヘキモノナリ

（四） 立憲國ニ於テ主權ヲ對内ニ對外ニ行使スルハ其先ニ著作權ノ沿革ノ章下ニ於テ述ヘタルカ如ク著作權ハ素ト單ニ内國の權利ニシテ内國著作若クハ内國ニ於テ發行シタル著作物ノミヲ保護シ外國著作若クハ外國ニ於テ發行シタル著作物ニハ何等ノ保護ヲ與ヘサリシ然レトモ單ニ内國人ノ權利ノミヲ保護シ外國著作者ノ權利ヲ認メサルトキハ一タヒ國境ヲ出ツルトキハ外國人ノ著作物ヲ翻刻翻譯スルモ之ニ對シ何等制裁ノ途ナク佛人ノ著作物ハ自耳義瑞西和蘭ニ於テ翻刻セラレ英人ノ出版物ハ米國ニ於テ偽作セラレ而シテ其翻刻書偽作物ハ佛國英國ニ輸入シ原書ヨリ却テ廉價ニ發賣セラルルノ狀況ナレハ原著作者出版者ノ受クル損害ハ尠小ニ非ニ是ニ於

テカ學者著述家出版者ノ間ニ之カ救済ヲ求ムルハ聲頻ニ起リ途ニ各國政府モ於テ相互協同シテ自他國民ノ著作權ヲ保護センコトノ條約ヲ締結スルニ至レリ此ノ如クシテ自他國民ノ著作權保護ハ條約ニ由リテ承認セラレタリト雖モ各國ノ法律各其内容ヲ異ニスルヲ以テ保護ノ程度條件手續等同一ニ非ス是ニ於テ成ルヘク之ヲ齊一ニスルノ必要ヲ認メ途ニ著作權保護ニ關スル列國同盟ヲ創設スルノ議起リ千八百八十六年瑞西國ベルス府ニ於テ同盟條約ヲ議定シ之ヲ實行スルニ至レリ今日ノ所謂ベルス同盟條約ナルモノ是ナリ此條約ニ於テハ列國共同シテ他國民ノ著作權ヲ自國民同様ニ保護スルノ主義ヲ承認シ且保護ノ程度條件等主要ナル點ニ關シ之カ規定ヲ設ケタリ而シテ此同盟條約ニハ英佛獨伊白瑞西等歐洲ノ文明國ト稱セラルル國ハ總テ加入シ我國モ明治三十二年七月ヨリ之ニ加入セリ著作權保護ノ國際的關係ノ由來ニ關シテ内外論叢第一卷第五號所載拙稿ヲ參照セラレタシ

（五） 著者姓名ハ本國人ハ前記此ノ如ク我國ハ著作權保護同盟條約ニ加入セシヲ以テ我國人ハ歐洲諸國ニ於テ著作權ノ保護ヲ享有スルト同時ニ英佛獨等ノ同盟國ニ屬スル著作者モ亦我

國ニ於テ著作權ノ保護ヲ享有スルニ至レリ茲ニ同盟條約ノ規定ト我著作權法トノ關係ヲ説明スヘシ
同盟條約第二條第一項ニハ同盟國ノ一ニ屬スル著作作者又ハ其ノ承繼人ハ同盟國ノ一ニ於テ公ニシ若ハ未タ公ニセサル著作物ニ關シ他ノ同盟國ニ於テ其ノ國法カ內國人ニ現ニ許與シ若ハ將來許與スヘキ權利ヲ享有ストアリ故ニ同盟國ノ著作作者又ハ其承繼人ハ其著作物ヲ同盟國ノ一ニ於テ公ニシタル場合未タ公ニセサル著作物ニ關シタモ亦同シニハ我國ニ於テモ著作權ノ保護ヲ受クルナリ而シテ我著作權法第二十八條ニ依レハ外國人ノ著作權ニ關シテハ條約ニ別段ノ規定アル場合ニハ其條約ノ規定ニ依ルヘキモノトセサルカ故ニ同盟條約ニ於ケル別段ノ規定ヲ左ニ説明セン
(一) 條件及ヒ方式ノ履行 同盟國ノ著作作者又ハ其承繼人カ他國ニ於テ著作權ノ保護ヲ享有スルニハ其著作物ヲ始メテ公ニシタル國ノ法律ニ規定セル條件及ヒ方式ヲ履行スルコトヲ要ス(同盟條約第二條第二項而シテ一タヒ其國法ノ規定スル條件及ヒ方式ヲ履行スルトキハ最早他國ニ於テハ何等ノ條件

及ヒ方式ヲ履行セスシテ當然著作權ノ保護ヲ受クルコトヲ得千八百九十六年解釋の宣言書第一故ニ我著作權法ニ於テハ著作權ノ侵害ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルニハ著作權ノ登錄ヲ受クルコトヲ要スルモ同盟國ノ著作作者ハ自國ノ法律ニ從ヒ方式ヲ履行シタルトキハ最早我國ニ於テハ登錄ヲ受ケスシテ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルナリ例ヘハ佛國人ハ佛國著作權法ノ規定ニ從ヒ納本ヲ爲シ英國人ハ英國著作權法ニ從ヒ「ステーション・ボード」ニ於テ登錄ヲ爲シタルトキハ我國ニ於テハ何等ノ手續ヲ爲サスシテ著作權ノ保護ヲ受クルコトヲ得ルカ如シ換言スレハ我著作權法第十五條第二項ノ規定ハ同盟國ノ著作作者ニ對シテハ適用ナキナリ是レ即チ條約ニ別段ノ規定アル場合ニシテ此場合ニハ本法ニ依ラスシテ條約ノ規定ニ從フナリ
(二) 著作權ノ保護期間 同盟條約第二條第二項後段ニ曰ク
他國ニ於ル右權利ノ享有ハ其ノ本國ニ於テ許與スル保護ノ期間ヲ超過スルコトヲ得ス
例ヘハ我著作權法ニ從ヘハ著作權ノ保護期間ハ著作作者ノ終身及ヒ死後三十

年ナルモ英國法ニ於ケル保護期間ハ著作ノ終身及ヒ死後七年ナルヲ以テ英國人ハ著作ノ死後七年ヲ經過スルトキハ最早我國ニ於テハ著作權ノ保護ヲ受ケルコトヲ得ナルナリ即チ著作權ノ期間ニ關スル我著作權法第三條以下ノ規定ハ外國人ニ適用セラレシメテ條約ノ規定ヲ依ルナリ何トナレハ期間ニ關シ條約ニ別段ノ規定アレハナリ

此ノ如ク條約ニ別段ノ規定アル場合ニハ條約ニ從フニ依リテ條約ニ何等ノ規定ナキ場合ニハ總テ我著作權法ノ規定ヲ適用スルナリ

同盟國ニ屬スル著作ハ同盟條約ニ依リテ保護ヲ享有スルモ同盟國以外ノ著作ハ如何同盟條約ハ主トシテ同盟國ニ屬スル著作ノ保護ヲ規定スルモ同盟國ニ屬セサル著作ニ關シテモ之ヲ規定セル箇條入リ第三條是カ

同條ニ依レハ同盟國ノ一ニ屬セサル著作ニシテ其文藝的又ハ美術的著作物ヲ同盟國ノ一ニ於テ始メテ公ニシ又ハ公ニシタル場合ニ於テハ其ノ著作人ハ同條ニ依ル條約並ニ本追加規定ノ附與ヲ保護ヲ享有スルハ百九十六年追加規定第二トアリ即チ同盟國以外ノ著作人ト雖モ其著作物ヲ同盟國ノ一ニ於テ始メテ

公ニシタルトキハ我國ニ於テ著作權ノ保護ヲ享有スルナリ而シテ同盟國以外ノ著作人カ我國ニ於テ保護ヲ享有スルニハ其著作物ヲ同盟國ニ於テ始メテ公ニシタルコトヲ要ス故ニ同盟國以外ニ於テ始メテ其著作物ヲ公ニシタルトキハ條約ニ於テ何等規定スル所ナキヲ以テ之ヲ保護スルト否トハ內國法ノ規定ニ依ルヘキモノナリ而シテ我著作權法ニ於テハ條約ニ何等ノ規定ナキ場合ニハ我國ニ於テ始メテ其著作物ヲ發行シタルトキニ限り保護ヲ享有ストノ主義ヲ採リタルヲ以テ同盟國以外ノ著作人ハ我國ニ於テ著作權ノ保護ヲ享有スルニハ我國ニ於テ始メテ其著作物ヲ發行スルコトヲ要ス

此ノ如クシテ我國ニ於テモ外國人ノ著作權ヲ認メ之ヲ保護スルニ至リタルヲ以テ著作權ハ單ニ內國の權利ニ非ニシテ世界の權利タルノ主義ヲ承認シタルモノト謂フベシ著作權ハ近世ノ法律現象ニシテ歐洲諸國ニ於テ之ヲ認ムルニ至リシモ十八世紀以降ノ事ナリ而シテ我國ニ於テ之ヲ權利ト認メ之ヲ保護スルニ至リシ實ニ明治二十年版權條例ニ始メレリ而シテ爾後僅ニ十有餘年ノ今日ニ於テ之ヲ完全ナル私權ト認メ文明ノ中心タル英佛獨リ著作權法ニ比シ

ヲ敢テ讓ラサル新主義ノ法律ヲ制定シ以テ學者藝術家ノ頭腦ニ生産物タル學
藝美術ノ著作物ヲ保護シ且外國人ノ著作權ヲモ平等主義ニ依リ之ヲ保護スル
ニ至リタルハ實ニ我國文運ノ進歩ニシテ我國學術界ノ發達ヲ世界ニ表彰スル
モノト謂ハサルベカラス著作權法ノ講義ヲ終了スルニ臨ミ特ニ之ヲ一言シ讀
者ト共ニ益々學術ノ研鑽ニ努メ智能の權利ノ發達ヲ圖ランコトヲ期ス

著作權法 終

(特別法講義終)

法學博士 水野練太郎講述

著作權法

法政大學發行

著作權法目次

第一章	著作權ノ名稱	一
第二章	著作權ノ沿革	三
第三章	著作權保護ノ基礎	一三
第四章	著作權ノ性質	二七
第五章	著作權ノ發生	六一
第六章	著作權ノ目的物	六六
第七章	著作權者	七九
第八章	著作權ノ内容	八九
第九章	著作權ノ移轉	九八
第十章	著作權ノ保護期間	一〇八
第十一章	偽作	一三三
第十三章	罰則	一四五

第十三章 外國人ノ著作權保護……………一四八

第十一節 總論……………一四八

第十節 著作權ノ取得……………一四八

第九節 著作權ノ存続……………一四八

第八節 著作權ノ行使……………一四八

第七節 著作權ノ消滅……………一四八

第六節 著作權ノ保護……………一四八

第五節 著作權ノ侵害……………一四八

第四節 著作權ノ救済……………一四八

第三章 著作權ノ消滅……………一四八

第二章 著作權ノ保護……………一四八

第一章 著作權ノ行使……………一四八

著作權法目次

終

式 勝本……………一四八

(カ)裁判所ノ命令ニ依ラスシテ付與セラレタル再度及其後ノ正本正式勝本公

第四十九條……………一四八

(コ)末尾ノ附記又ハ公證人ノ署名捺印ヲ缺キタル再度及其後ノ正本正式勝本

(同上)……………一四八

法律ハ此ノ如キ證書ヲ以テ證書其自體カ公正效ヲ有セス又ハ正本正式勝本タ

ルノ效ナシト宣告セリ從テ事實上公證人ノ作成シタルモノナルニ係ハラス其

全部ニ付テ公正證書タル效力ヲ喪失スルモノトス……………一四八

然レトモ此ノ如キモノヨリ公正效ヲ剝奪スルハ國家カ嚴正ノ維持ニ必要ナリ

トスル條件ヲ課シタル結果ニシテ從テ一ハ公ノ秩序ヲ保持スル爲メ他ハ箇

人ノ利益ヲ保護スル爲メ之ニ多大ノ信憑ヲ付與スルハ極メテ危險ナリト認メ

タルニ過キス故ニ失效ノ證書ニシテ私署證書カ具備ス可キ一切ノ要項ヲ具ヘ

且ツ其本旨ノ性質カ私署證書タル形式ニ依リ作成セラルルヲ許スモノナラシ

メハ私署證書トシテ其成立ヲ認ムルコト却テ當事者ノ利益ニ適セストセス法

律カ此ノ如キ證書ニ對シ單ニ公正ノ效力ヲ有セズトシ規定シテ部ノ失効ノ場
合ニ於ケル如ク全然無効ナルヲ宣言セザルモ亦此理由ニ出テ其本人ニシテ
民事上完全ナル證據力タルコトハ許容セザルモ前記ノ條件ヲ具備スル其
ハ私署證書トシテ若干ノ效力ヲ有セシタルハ趣意ナルヲ窺フニ足ラン人或
此ノ如キ證書ニ縱令其資格ナキモ公證人カ干與スルヲ以テ單純ナル私署證書
ヨリ信憑力大ナリト説クモノアリ然レドモ公證人ハ公吏タルニモセテ其資格
ヲ以テ干與スルニ非サレハ毫モ私人ト異ル所ナク從テ之ヲ單純ナル私署證書
ヨリモ重要視スルハ信用ヲ置クコト厚キニ過キタリ或ハ曰ク公證人ハ其資格
ニ於テ證書ノ作成ニ干與ス若シ證書ニシテ公正効ヲ失ハシカ公證人ノ所爲ハ
全ク無効ニシテ存在セザルニ同シタ當事者ノ署名捺印ノミカ並立殘存スル證
書ハ何等ノ效力ヲモ生セズト此ノ如キハ證書ノ效力ヲ蔑視スルニ過キタリ何
トナレハ公證人ト雖モ其資格ヲ離脱スルトキハ絕對ニ私署證書ニ干與スル能
ハサル理由ナク又其資格ニ於テキヤト否トハ本人ノ意思ヨリモ依リテ決定ス
可キ問題ニアラサレハナリ故ニ公證人ノ干與ハ私人カ立會ヒタルト同シタ證

書ノ效力ニハ格別ノ影響ナク唯タ該證書ニシテ私署證書ノ要件例之當事者ノ
署名捺印ヲ具備シ且ツ其本旨タル法律關係カ私署ノ形式ヲ許容スル限リハ假
令公正効ナクトモ私署證書トシテ其效力ヲ保有スルモノト言フノ適當ナルニ
如カサルナリ此理由ニ依リ關係人ノ署名捺印ヲ缺キタル證書ハ私署證書タル
コト能ハサルヲ以テ全ク無効ト言フ可ク公正證書ニ依ル遺言ニシテ不適法
ヲハ其本旨タル遺言ハ自筆證書若シタハ秘密證書ノ如キ格段ナル形式ヲ以テ
スルニ非サレハ效力ナキカ故ニ該遺言モ全然無効ナリト言ハサル可カラス要
スルニ公正効ナキ證書カ更ニ私署證書タリ得ルモ否ヤ法律ノ默止スル所ニ
係ハルヲ以テ前掲ノ原則ニ從ヒテ之ヲ判斷セサル可カラス又之ニ準シテ正本、
正式謄本ノ效力モ亦自ラ明カナル可シ

第三章 特種ノ公證行爲

第一節 遺言

遺言ハ要式的法律行爲ニシテ民法ノ規定ヲ案スルニ遺言カ適法ニ作成セザル

可キ方式トシテハ普通方式及特別方式ニ分チ普通方式ニ於テ自筆證書ニ依ルモノ、公正證書ニ依ルモノ及秘密證書ニ依ルモノトノ三様ヲ認メタリ而シテ今茲ニ論究セント欲スルハ公證人ノ職務ニ關係ヲ有スル方式ニ係ハリ普通方式中公正證書ニ依ル遺言ハ公證人之ヲ作成シ秘密證書ニ依ルモノハ公證人ノ干與ヲ必要トスルカ故ニ説明ノ範圍モ自カラ此二方式ニ止マルナリ

(甲) 公正證書ニ依ル遺言

遺言ト雖モ公正證書ニ依リ之ヲ作成スルトキハ民法ニ於テ特別ノ規定ヲ存スル外一般ノ公正證書作成手續ニ遵ハサル可カラス
(イ) 當該公證人ハ自己ノ爲メニ遺言ヲ作成ス可カラサルハ勿論其親族ノ遺言ニ付キ公正證書ヲ作成スルコトヲ得ス又親族以外ノモノカ遺言ヲ爲ス場合ニ於テモ自己親族立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル事項ヲ證書中ニ記載スルコトヲ得ス(第二十八頁乃至第三十一頁)公正證人ノ除斥參照而シテ利益アル事項トハ汎ク一切ノ恩惠ヲ包含シ管ニ遺言者ヨリ進ンテ金品ヲ贈與スルノミナラス或ハ勞務ヲ免シ或ハ既ニ負フ債務ヲ免除スルカ如キ消極的利益ヲモ含ムモノト

ス

(ロ) 證書ニ記載ス可キ事項ハ遺言タル本旨ノ外遺言者及立會人ノ族籍住所職業氏名年齡並ニ作成ノ場所及年月日ヲモ必要トス何トナレハ禁治產者ト雖モ其間歌時ニ於テハ尙ホ遺言シ得ルヲ以テ(民第七十三條參照)作成ノ年月日等ハ極メテ必要ナレハナリ

(ハ) 遺言ニ付テハ遺言者即チ囑託人ナルヲ以テ公證人カ之ニ面識アリ且ツ氏名ヲ知得スルトキハ格別然ラサルトキハ郡區長ノ證明書又ハ公證人カ氏名ヲ知リ且ツ面識アル成年者二名以上ノ證明ニ依リ果シテ本人ナルコトヲ確認スル

コトヲ要ス(第九十五頁參照)

(ニ) 證書ノ記載方法例之文字ノ追加消除等ノ如キ又ハ書類ノ契印等ニ付テハ全然一般ノ公正證書ヲ作成スル手續ニ依ラサル可カラス(第百頁記載手續參照)民法ニ於ケル特別規定ハ次ノ如シ
(ホ) 證人(廣義ノ立會人)ハ二名以上ナルコトヲ要ス其能力ニ付テハ第二節ノ第一(第九十三頁乃至第九十五頁參照)ニ於テ詳述シタルカ如シ然レトモ公證人規則

ニハ公證人證書ヲ作ルニハ丁年者一名ノ立會人ヲ要ス公證第二十八條トアリ又民法ニ於テハ公正證書ニ依リ遺言ヲ爲スニハ證人二名以上ノ立會アルコトヲ要スル旨民法第六十九條ヲ規定スルカ故ニ遺言ノ作成ニハ單ニ證人二名ノ立會ヲ以テ足レリトスルカ或ハ之ニ加フルニ尙ホ立會人ヲ必要トスルカニ付テ少シク疑問ヲ生ス余輩ハ主トシテ其任務ノ合一ナル點ヨリ立會人ノ干與ヲ要セスト主張セントス何トナレハ公證人規則カ一般ノ手續ニ於テ立會人ヲ要求スルハ證書カ嚴正ニ作成セララルコトヲ保障セント欲スルニ過キス遺言ノ證人モ既ニ明文ニ於テ公證人ノ筆記讀聞ヲ聽キタル後筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後之ニ署名捺印ス可キコトヲ規定シ立會人ノ責務カ公證人ノ讀聞ヲ聽キ證書ニ署名捺印スルニアルト全ク同一ナリ然レハ證人ノ任務タルヤ遺言ノ適法ナリヤ否ヤヲ監査スルニアラス遺言ヲ本旨トスル公正證書ノ作成ニ立會ヒ遺言者ノ最後ノ意思カ正當ニ證書ニ記載セラレタルコトヲ證明スルニアルト明カニシテ兩者ノ任務ハ相同シキモノト言ハサル可カラズ或ハ曰ク立會人一名ヲ要スルハ一般ノ證書作成手續ニシテ遺言ハ遺言者ノ死亡後ニ

於テ效力ヲ發スルモノナルヲ以テ特ニ鄭重ナル手續ヲ經可キモノト更ニ證人二名以上ノ干與ヲ要求スル所以ナリト然レトモ名ハ立會人或ハ證人ト云フモ民法ニ於テハ禁治産者カ本心ニ復シ遺言ヲ爲ストキニ於テ其作成ノ手續カ嚴正ニ行ハレタルヲ證スルト共ニ遺言者ノ心神ノ狀況ニ異違アラサリシ旨ヲ證明スル特別ノ任務ヲ負擔スル醫師ト稱スルカ故モ之ト區別スル爲メ證人ナル名稱ヲ下シタルニ止マリ特ニ證人ニ對シテモ立會ノ語ヲ用ヒ其内容ニ至リテハ全ク同一ニシテ唯タ遺言ハ一般ノ證書ヨリモ其作成手續ヲ嚴重ニスルノ必要アルコト論者ノ言ノ如クナルヲ以テ一般ノ手續ニ於テ立會人一名トアルヲ特別ノ規定ニ依リ之ヲ二名以上ト爲シタルモノナリ從テ立會人一名ヲ二名以上トナスヨリ一名ニ二名以上ヲ加フルヲ以テ嚴正ヲ維持シ得可シトナスハ程度ノ問題ニ止マリ又特別手續カ一般手續ヲ排斥スルヲ效力アルヲ無視スルノ説タラスンハアラス

(ホ)遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ滿十五歳以上ニ達シ且ツ遺言能力ヲ有スルコトヲ要ス(民第六十一條)第六十三條公證人ハ遺言證書ヲ作成スルニ當リ囑

託人ノ氏名ヲ知リ且ツ面識アルカ或ハ郡區長ノ證明書又ハ二名ノ人證ニ依リ其本人タルヲ立證セシメ此方法ニ依リ遺言者ノ年齢及能力ノ如何ヲ知得ス可キ義務アリ而シテ遺言ヲ爲スニハ一般ノ法律行為ト異リ十五年以上ノ未成年者準禁治産者及妻ト雖モ法定代理人又ハ夫ノ同意又ハ許可ヲ要セサルモノナレトモ禁治産者ニアリテハ精神ノ喪失ヲ常態トシ唯タ其本心ニ復シタルトキニ於テノミ遺言能力ヲ有スルカ故ニ此種ノモノニ付テハ醫師二人以上ヲ立會ハシメ以テ本人カ遺言當時心神喪失ノ狀況ニアラサリシ旨ヲ檢認セシメ其旨ノ附記ヲ爲サシムルノ注意ヲ執ラサル可カラス

此ノ如ク年齢及能力ニ於テ缺クル所ナキモノト雖モ事實上法定ノ方式ヲ履行スル能ハサルモノハ到底適法ナル遺言ヲ爲ス能ハサルモノトス例之語能ヲ失ヒタル證者ノ如キ遺言ノ趣旨ヲ口授スルコト能ハス又聽能ヲ缺キタル證者ノ如キハ筆記ノ讀聞ヲ聽ク能ハス皆公正方式ニ依リテハ遺言ヲ爲ス能ハサルモノトス以上ノ事項ハ遺言ノ趣旨ヲ公證人ニ口授スルコトヲ要ス此口授ハ遺言者カ其意

思フ發表スル唯一ノ途ニシテ他ノ方法例之書面又ハ符號ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得サルモノトス故ニ證者ハ此方式ニ依リ遺言スルヲ得サルナリ而シテ言語ハ明瞭ニ平易ナル用語ヲ以テス可シ然ラサレハ公證人及證人其趣旨ヲ知得シ難ク公證人之ヲ了解シ得サレハ筆記スルコトヲ得ス證人之ヲ了解シ難クハ筆記ノ正確ナルヲ承認シテ署名捺印スルコトヲ得サレハナリ

(ト)公證人ハ遺言者ノ口述ヲ筆記セサル可カラス筆記ス可キモノハ遺言者ノ居頭ニ上リシ全部ニシテ之ヨリ多カラス又寡ナカル可カラス全ク口述ヲ文字ニ表示シタルモノニ止マル可キナリ從テ口述ノ曖昧ナルヲ明瞭ナラシムル爲メノ外誘導論難ノ疑問ヲ發スルコトヲ得ス

公證人カ自ラ筆記ス可キ義務ヲ負フハ遺言者ノ口授シタル部分換言スレハ遺言者カ其最後ノ意思トシテ發表シタル部分ニ止マルモノニシテ囑託人及證人ノ氏名族籍等ノ如キ其他ノ部分ハ其筆記者ノ何人ナルモ問ハサルモノトス而シテ公證人ハ口授ヲ承ケ之ヲ手控ニ記載シタル後證書ニ作成スルモ其作成力關係人ノ面前ニ於テ爲サレタルトキハ證書ノ效力ニ影響ナク必スシモ直チニ

口授ヲ證書ニ表示スルコトヲ要セラルナリ、
(チ)公證人ハ筆記ヲ遺言者及證人ニ讀聞カズコトヲ要ス遺言ヲ趣旨ヲ遺言者
リ受ケ之ヲ證書ニ作成スルノ間ニ於テ口述ト筆記ト錯誤ナカリシキ否キヲ確
實ニスル方法ニシテ證人ノ署名捺印モ此讀聞ニ依リ筆記ノ正確ナルヲ承認シ
タル後ナラサル可カラス而シテ讀聞タルヤ公證人自ラ之ヲ爲スコト且ツ口述
ノ全部ノミナラス尙ホ其追加及消除ニマテ及フモノトス
(リ)證人ノ立會ハ遺言者ノ口授ヨリ其證書ノ完成ニ至ルマテ斷斷ナキコトヲ要
ス屢述ヘタル如ク證人ハ證書ノ改正ニ作成セラルルヲ保障スルモノナルカ故
ニ未タ證書作成ノ手續中ニテウツテ不在ヲ生スルカ如キハ頗ル危險ヲ感スルモ
ノト言ハサル可カラズ如何ニ短期間ナリトモ不在ヲ許サハ違ニ立會ノ名アツ
テ其實サカル可キニ至レハナリ
(ニ)關係人各自ノ署名捺印ヲ要ス遺言者及證人ハ讀聞其他ノ方法ニ依リ筆記カ
口述ニ對シ正確ニ作成セラレタルヤ否ヤヲ検査セサル可カラス而シテ其正確
ナルコトヲ承認シタルトキハ證書ニ署名捺印スルコトヲ要ス茲ニ注意ス可キ

ハ署名不能ノモノアル場合ニ於テハ其補充ノ方法ハ一般ノ手續ト異ルコト之
ナリ即チ此場合ニアリテハ單ニ捺印ノミヲ爲サシメ公證人自ラ其妨碍ノ事由
ヲ附記シテ之ヲ署名ニ代フルコトヲ得可シ之レ遺言カ一般ノ法律行為ト其性
質ヲ異ニスルヲ以テナリ
此ノ如キ署名捺印ノ方式ヲ完了シタル後ニ於テ其前部ニ何等ノ款項ヲモ附
加挿入スルヲ得サルモノトス從テ附加削除ニ必要アリタルトキハ更ニ前述ノ
如キ一切ノ手續ヲ履ムコトヲ要スルナリ
(ル)公證人ハ方式ヲ遵守シタル旨附記シ且ツ署名捺印スルコトヲ要ス證人ノ立
會遺言者ノ口授公證人ノ筆記證書ヲ讀聞及關係人ノ承認等ノ方式ハ事實上之
ヲ履行シタルノミナラス之ヲ履行シテ證書ヲ作成シタル旨ヲ記載アルコトヲ
要ス然ラスシハ方式ノ遵守ハ之ヲ徵ス可キモノナクシテナリ公證人ハ此記載
ヲ爲シタル上證書ニ署名捺印シ以テ證書作成ノ手續ヲ完了シ其後ニ於テハ原
本ヲ保存ス可キ義務ヲ生スルノミ
(乙)秘密證書ニ依ル遺言ハ遺言者ハ其秘密ヲ保持スルノ義務ヲ負フ
公證人規則 公證人職務 種類ノ公證行為 遺言

秘密證書ニ依ル遺言ヲシテ法律上有效ナラシムルニハ公證人ノ干與ヲ缺タサル可カラス其作成ノ方式次ノ如シ

(イ) 遺言能力ハ公正證書ニ依ル遺言ノ項下ニ述ヘタルト全ク同一ナリ然レトモ事實上此方式ヲ履ミテ有效ナル遺言ヲ爲サンニハ讀書力ヲ有シ且ツ盲者ナラサルコトヲ要ス何トナレハ法律ハ遺言書カ遺言者ニ因リ筆記セラシムルカ少タトモ第三者ニ依リ筆記セラレ遺言者之ニ署名捺印ス可キコトヲ要求スルカ故ニ文字ヲ了解シ且ツ之ヲ筆記シ得ルカ若シクハ文字ヲ了解シ得ル教育程度ニアラサルモノハ到底此方式ニ依リテ遺言ヲ爲スニ適セサレハナリ又不具者中聾者ハ讀書シ得ルニ妨碍ナカル可ク啞者ハ法律尙便法ヲ設ケテ此方式ニ因リ遺言シ得ル途ヲ設ク(民第千七十二條)雖モ獨リ視能ヲ失ヒタルモノニアリテハ自ラ其意思ニ適合スル文字ヲ筆記シ又ハ之ヲ了解スルニ由ナキヲ以テ到底此方式ニ依ルニ堪ヘサルモノトス而シテ此ノ如キ適否ヲ定ムルハ遺言書提出ノ時期ニ於ケル遺言者ノ狀態ニ依リテ之ヲ決ス可キモノトス何トナレハ遺言書作成ノ時ニ於テ讀書シ得タリシトスルモ之ヲ公證人ニ提出スル際ニ提出ノ

書類カ果シテ其讀ミ又ハ筆記シタルモノト同一ナリヤ否ヤ確ムルニ由ナケレハナリ(ドモロンプ氏三九二號)

(ロ) 遺言者ハ自ラ又ハ第三者ニ依リテ遺言書ヲ作成シ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス遺言書ハ其全文日附及氏名ヲ以テ其内容トス若シ作成後ニ於テ挿入、削除其他ノ變更アリタルトキハ遺言者其場所ヲ指示シ之ヲ變更シタル旨ヲ附記シ特ニ之ニ署名シ且ツ其變更ノ場所ニ捺印スルニ非サレハ變更ノ效力生セサルモノトス而シ自筆ニ係ハルトキハ秘密證書トシテ不適法ナルトキト雖モ自筆證書ニ依ル方式ヲ具備シタルトキニ限り自筆證書ニ依ル遺言トシテ效力ヲ有スルモノトス

(ハ) 秘密證書トハ遺言者カ其死亡アルマテ其款項ヲ他人ニ賜フ可キコトヲ希望シテ之ニ依ルモノナルカ故ニ其最後ノ意思ヲ表示シタル遺言書ハ他人ニ知得セラレサル裝置ヲ施ササル可カラス故ニ其遺言書又ハ之ヲ包庇スル紙片ヲ封シ證書ニ用キタルト同一ノ印章ヲ以テ之ニ封印シ以テ他人カ其書類ニ毀損ヲ加ヘ又ハ其痕跡ヲ留ムルニ非サレハ之ヲ披見シ又ハ變換スル能ハサラシム可

シ
ニ遺言者ハ此ノ如ク密封シタル遺言書ヲ公證人一名及證人二名以上ノ前ニ提出スルコトヲ要ス而シテ公證人及證人カ除斥セラルル場合ハ公正證書ニ依ル遺言ト少シク異ル所アリ即チ公證人ハ自己又ハ親族カ遺言者タル場合ノ外除斥セラルルコトナシ何トナレハ此方式ニ於テ公證人ノ干與スルハ表記行為 (acts of authentication) ニアリテ遺言ノ文言ニアラス遺言ノ作成ハ其干與以前ニ完結シ全ク公證人ノ關係セサル所ナリ故ニ遺言中ニ自己親族等ノ爲メニ利益ナル條件ヲ包含スルヤ否ヤハ固ヨリ祕密證書ナルヲ以テ未知ノ問題ニ屬シ縱令利益ナル條件アリトモ遺言ハ公證人ノ干與セサル證書ナルヲ以テ遺言即チ私署文言ト全ク別箇ノ表記行為ヲ爲スニ妨ナキナリ從テ遺言中ニ利益ナル條件アリトノ理由ニ因リテハ除斥セラルルコトナシ然レトモ表記行為モ公證行為ノ一ニシテ且ツ遺言者ノ爲メニ之ヲ爲スモノナルカ故ニ遺言者ニシテ自己ナルトキハ勿論其親族ナルトキハ表記スルコトヲ得サルモノトス(公第三十六條) 證人タリ得サルモノハ一般公正證書ノ作成ニ立會人タリ得サルモノ(第九十三

頁以下參照)及事實上其能力ナキモノトス既ニ述ヘタル如ク此方式ニ於テ證人タル可キモノハ遺言ノ作成ニ立會フモノニアラス公證行為タル表記行為ニ立會フナリ故ニ遺言ノ證人タリ得サルモノ(民第七十四條)雖モ一般ノ公正證書作成ニ立會ヒ得ルモノナレハ證人タルコトヲ得可シ而シテ其任務タル遺言者ノ申述ヲ聽キ公證行為ノ嚴正ヲ保障ス可キモノナルカ故ニ視能聽能ノ一ヲ缺キタルモノハ證人タルニ堪ヘサルナリ

(ホ)遺言者ハ自己ノ遺言書ナル旨ヲ申述シ尙ホ其筆者カ自己ナルトキハ自己第三者ナルトキハ其氏名及住所ヲ申述セサル可カラス若シ遺言者カ言語ヲ發スルコト能ハサルモノナルトキハ公證人及證人ノ面前ニ於テ其提出ニ係ハル證書ハ自己ノ遺言書ナル旨並ニ筆者ノ氏名住所ヲ封紙ニ自書シ以テ申述ニ代フルコトヲ要ス又禁治產者カ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人以上ヲ以テ立會人ト爲ササル可カラス
(ハ)公證人ハ遺言書ノ提出ヲ受ケタル後自ラ其封紙ニ遺言書提出ノ日附及遺言者ノ申述ヲ記載シ遺言者及證人ト共ニ之ニ署名捺印ス遺言者カ語能ヲ失ヒズ

ルモノナルトキハ本人カ申述ニ代ヘ面前ニ於テ其趣旨ヲ自書シタル旨ヲ封紙ニ記載シテ申述ノ記載ニ代フ可ク遺言者カ本心ニ復シタル禁治産者ナルトキハ立會人ハ當時本人カ心神喪失ノ狀況ニ在ラザリシ旨ヲ封紙ニ記載シ之ニ署名捺印スルヲ要ス於是遺言ヲ内容トシタル秘密證書ノ作成完了ス

(ト)此ノ如キ特別ノ規定ナキ事項ニ付テハ總テ一般ノ公正證書作成ノ方式ニ從フモノトス

(チ)秘密證書ニ依ル遺言ニ干與シタルトキハ見出帳ニ囑託人ノ氏名住所取扱ノ年月日等ノ要件ヲ記載シ其證書ハ之ヲ遺言者ニ送付ス可シ

第二節 拒絕證書

拒絕證書ハ手形ノ引受又ハ支拂ヲ拒絕セラレタルモノカ其手形上ノ權利ノ保全ニ必要ナル行為ヲ爲シタル事實ヲ證明スル要式的ノ證書ニシテ我手形法ハ拒絕證書ナクハ遡求權ヲ認メサルノ主義ヲ執リタルヲ以テ拒絕證書ハ遡求權ノ執行ニ必要ナル法定ノ行為ヲ完了シタル唯一ノ證明書ニシテ他ノ書類ヲ

以テ之ニ代フルコトヲ得ヌ又其欠缺ハ他ノ證據ヲ以テ補充スルコトヲ許ササルモノナリ從テ苟クモ適法ナル拒絕證書ノ作成スレハ法律上必要ナル行為ヲ完了セラレタリト認ム可ク此ノ如ク重要ナル證書ナルカ故ニ法律ハ公證人又ハ執達吏ヲシテ其作成ニ機關ニ當タラシメテ其職責ヲ負ハシメタルヲ以テ

(イ)拒絕證書ハ公證人ノ作成ニ係ハルトキハ一ノ公正證書タルコトヲ失ハス故ニ其作成ニハ囑託人ノ署名ヲ要ス

(ロ)囑託人ノ其手形ノ所持人タルコトヲ以テ十分トス何レハ支拂拒絕證書ノ如キハ滿期日又ハ其後二日以内ニ之ヲ作ル可キカ如キ商事上特ニ短期間ヲ定メタルカ故ニ面識ナキ場合ニ於テハ郡區長ノ證明書又ハ公證人ト相知ノ證人ヲ以テ本人ノ立證スルカ如キハ頗ル迂遠ナル方法ト謂ハサル可カラズ故ニ公證人カ氏名ヲ知リ且テ面識アルヲ要セズ單ニ手形ノ所持人タル事實ヲ以テ足レリトセリ

(ハ)記載ニ可キ事項ハ次ノ如シ商第五百二十五條

(一)手形其原本及補箋ニ記載シタル全文
(二)拒絕者及被拒絕者ノ氏名又ハ商號

セナリシコト又ハ拒絶者ニ面會スルコト能ハサリシ理由本證書ハ特別ナ

ル公正效ヲ附與セラルルカ故ニ此請求及拒絕ハ單ニ囑託人ノ陳述ニ由ル

ノミナラス公證人カ實際ニ於テ見聞シタル上之ヲ記載ス可キモノトス

(四) 前記ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサルシ地及年月日

(五) 指稱者、營業所住所又は居所を知れず、場合ニ於テハ其地ノ官署又ハ公署ニ問合テ尋シタルモノ

十六) 法定ノ場所ニ於テ巨額證券ヲ非シテ、巨額證券ヲ賣却シ、或シテ

拒絶證書ハ毀傷外ハ作成ヲ本則トス所罰已ムヲ得ナシ其外ハ二則ノ規定ニ依リテ

第四條第二項（君臨ニ關スル）

(七) 參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ種類及參加人並ニ被參加人ノ氏

宗王名又ハ商號ヲ置キ而シテ其ノ腹ニ重宝ナルヲ鑄書スル者多シ其利ハ必ズ大ニ興

(ハ) 公證人カ拒絶證書ヲ作成スルニハ總テ一般ノ公正證書作成ノ方式ニ從テ可

シ證書中ノ追加消除、署名捺印、書類ノ契印等一般ノ方式ニ遵據セザレハ其效大

第三節 認證

キモノトス之レ公正證書タルノ結果ナリ書ノ編纂日ヲ註記スルモノハ、錢ヲ持
 (ニ)拒絕證書ヲ作成シタルトキハ、其帳簿ニ其證書ノ全文ヲ記載セラル上證書ヲ
 囑託人ニ付與ス若シ其證書ニシテ滅失シタルトキハ利害關係人ハ其贖本ノ交
 付ヲ請求スルコトヲ得可ク公證人以帳簿ノ記載ニ基キテ之ヲ付與シ其贖本ハ
 原本ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス其間立入日ハ、錢代ノ書ハ、錢ノ書

公證人ハ總合當事者ノ囑託アルモ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ猥リニ認證スルコトヲ得ス又認證スルモ何等ノ效ナシ認證ハ公證行爲ノ一ニシテ其目的タル事項ノ真正ナルコトヲ證明スルモノナリ

民事訴訟法上訴訟ニ委任ハ書面委任ヲ以テ之ヲ證ス可キヲ定メ其書面ハ私署タルト否トヲ問ハサルナリ然レトモ私署證書ニ依ル訴訟委任ハ相手方カ之ヲ爭フトキハ其求メニ因リ公證人又ハ相當官吏ノ認證ヲ經可キモノト爲シタルリ

公證人カ委任狀ノ認證ヲ爲スト雖ハ其認證ハ當事者及其間ノ法律關係ノ真正

第四節 確定日附ノ附與

成セラレタルモノナルコトハ此確定日附ノ存在ノミニ因リ完全ニ立證セラレ

タルモノナリト認メラル從テ確定日附ハ其證書作成ノ日ヲ完全ニ證明スル效
力アルモノトス

法有ハ確定日附ニ此ノ如キ證據力ヲ認ムルカ故ニ證書ニ公力ノ干與シタル場合若シタハ確實ナル事實ヨリ其作成ヲ豫想シ得可キ場合ニ限リテ證書ニ確定日附アルモノト爲シタリ其場合左ノ如シ

(一公正證書ナルトキハ其全部カ公正效ヲ有スルヲ以テ其日附モ確定日附ト

シテ完全ナル證據力ヲ有ス可キモノトス

章ノ日附ヲ以テ確定日附トス即チ日附ニ付キ時ニ公力ノ干渉アルカ否ハ

(三)官廳又ハ公署ニ於テ私署證書ニ或事項ヲ記入シ之ニ日附ヲ記載シタルト

キハ少クトモ其日附ノ日ニ於テ其證書カ作成ヲ了シタリトスルハ確實ナル

確定日附トス 翠雲岩中ニ張口ノ新美ハ青クハ
ガ美ハ其張口ノ新ニ似テ青クハ

(四)私署證書ノ署名者中ニ死亡シタル者アルトキハ其死亡後ニ於テ證書ノ作成ハ到底想像スル所トヲ得サルヲ以テ其死亡ノ日ヨリ確定日附アルモノトスルハ其日附ハ日ニ就テ其證書ニ附與セザルベシトモイフハ其事實ニ
(五)確定日附アル證書中ニ私署證書ヲ引用シタタルトキハ其少クモ前ノ證書ノ日附後ニ於テ後ノ證書ヲ作成セラレタルトキハ其證明力可カラサルカ故ニ前ノ證書ノ日附ヲ以テ引用シタル私署證書ノ確定日附トスルハ其證明力民法第四百六十七條ノ規定ニ依リテ指名債權ノ讓渡ニ付キ讓渡人ノ爲シタル通知又ハ債務者ノ爲シタル承諾ヲシテ債務者以外ノ第三者ニ對抗セシメシムルハ確定日附アル證書ヲ以テセサル可カラス此ノ如ク當事者カ第三者ニ對スル關係ニ於テ其證書ニ確定日附アラシメントスルハ前掲(一)乃至(五)ノ一方法ヲ執ルコトヲ要ス可シ然ルニ後三箇ノ方法ハ主トシテ偶然ノ事實ニ屬シ當事者カ之ニ依ルヲ豫期シ得可カラサルカ故ニ勢ヒ前二箇ノ方法ヲ選擇ス可ク或ハ其證書ヲ公證人ニ作ラシムルカ或ハ私署證書ヲ作成シ之ニ公證人(登記官吏)ノ日附印章ノ押捺ヲ受クルカノ二中其一ヲ執ラサル可カラス而シテ公正證書ト

シテ作成ヲ囑託スル方法ニ付テハ其手續ハ既ニ詳述シタルカ如シ而シテ私署證書ニ公證人ノ印章押捺ヲ受クル手續ハ本項ニ於テ説明セントスル所ニシテ即チ次ノ如シニハ其手續ヲ詳述スルハ其證明力ニ影響セズ
(イ)囑託人ニ付テハ公證人ノ行為ハ證書ノ内容ヲ證明スルニ非シテ單ニ確定日附ヲ付與シテ其作成ノ日ヲ證明ニ供スルモノナルカ故ニ本人タルヲ確認スル方法即チ郡區長ノ證明書又ハ人證等ヲ必要トセサルナリ

(ロ)確定日附ハ請求ナクシテ之ヲ附與セズ
(ハ)公證人ハ此目的一供スル爲メ其役場ニ備フ可キ日附アル印章及確定日附簿ト稱スル特種ノ帳簿ヲ作成スル義務アリ印章及帳簿ハ法定ノ形式ニ從フテ之ヲ作成セサル可カラス其形式ニ付テハ明治三十一年七月八日司法省令第七號附屬雛形ヲ参照ス可シ
(ニ)確定日附簿ハ豫メ登簿番號ヲ印刷シ其他法定ノ形式ニ從ヒ調製スルモ管轄地方裁判所長ニ差出シ其署名捺印ヲ經サレバ之ニ記入ヲ爲スモノトヲ得ス當該地方裁判所長ハ帳簿ヲ受ケタルトキハ法定ノ方式ヲ遵守シタリヤ否ヤヲ査閲

紙上其紙數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且ツ職印ヲ以テ每紙ノ綴目ニ契印ス可シ此ノ如キハ後日ノ増減變換ヲ豫防スルノ趣旨ニ出スルヲ見出帳ニ於ケルト同シ其趣旨ニ合フハ公証人ハ先ヨリ請求シタルトキハ其一名ノ氏名ニ外何名ト附記シタルモノ及事件ノ名稱ヲ記載シ且ツ其帳簿ニ日附アル印章ヲ押捺ス可シ

(ハ) 請求者カ提出シタル證書ニハ登簿番號ヲ記入シタル上日附アル印章ヲ押捺スルコトヲ要ス

(ト) 日附アル印章ヲ以テ更ニ帳簿ト證書トニ割印シ證書カ數紙ヨリ成レル場合ニ於テハ前記ノ印章ヲ以テ每紙ノ綴目又ハ綴目ニ契印ヲ爲ス可シ

(チ) 確定日附簿ニハ各事件ヲ請求順ニ依リ記入ス可ク且ツ其順序ヲ變更スルコトヲ許ササルモノトス

(リ) 其他ノ方式ヲ付テハ一般ノ證書作成手續ニ從テ可キモノトス

第四章 義務

公証人ハ簡人タル義務ノ外其職務ニ伴フ特種ノ義務ヲ負フモノトス即チ左ノ如シ

(イ) 職氏ノ職務ヲ囑託人ノ財産及名譽ノ安固ハ公証人ノ著實ニ依リ且ツ多シ從テ公証人カ其職務上ノ關係ヨリ知得タル簡人ノ祕事ヲ暴露スルトキハ其影響ナシトオサス故ニ裁判所ニ證人トシテ供述スル場合ノ外公証人ニ囑託事項ヲ祕秘スル義務ヲ負擔セシメタリ(第百十八頁參照)

(ロ) 書類保存ノ義務 公証人カ原本ヲ保存セサルカ又一且保存スルモ之ヲ亡失シテ補充ノ方法ヲ執ラサル證書之ニ公正效力ヲ認メズ從テ原本ノ保存ハ證書カ效力ニ關シ頗ル重大ナル影響ヲ有スルモノト言ハサル可カラズ於是法律ハ作成シタル公証人若シ其者カ失格シタルトキハ其事務ヲ承繼シタル公証人ニ原本保存ノ義務ヲ課シ第百十五頁以下參照條ニ役場ニ於テ之ヲ保存ス可キモノトシタル然レトモ公証人カ保存ノ義務ヲ負擔スルハ原本公証第三十九條

ミナラス其附屬書類ニシテ及テモハ何トナレハ法律ハ附屬書類ヲ以テ原本ニ連綴ス可キコトヲ命シ且ツ之ヲ税場ニ保存ス可キモメト爲シタレハナリ』證書ニ關係アル書類ハ原本ニ連綴スルニ依リ附屬書類タリ然レトモ關係書類中法律カ絕對ニ連綴ヲ命スルモノト連綴ラ公證人ノ意思ニ放任スルモノトノ二アリ前者ハ裁判所ノ命令書委任狀又ハ證明書ノ寫ノ如キモノニシテ後者ハ前掲以外ノ關係書類ヲ云フ而シテ後者ノ部類ニ屬スル書類ハ之ヲ連綴シタルトキハ保存ノ義務ヲ發生スルカ故ニ之ヲ任意ニ處分スルコトヲ得サレトモ然ラサル場合ニ於テ其書類ノ性質上囑託人ニ返還ス可キモノハ其請求ニ應ス可キ義務アリトス然リト雖モ此ノ如キ請求權ヲ無期限ニ存續セシムルハ適當ニ公證人ノ責任ヲ重カラシムル弊アルヲ以テ其職務執行ノ時ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ請求權ハ時効ニ依リ消滅スルモノト爲シタリ民第百七十一條)

(ハ)身元保證金納付ノ義務 身元保證金ハ公吏ノ義務執行ニ關スル物的擔保ナリ公證人カ新タニ任命後其義務ノ執行ニ著手スルトキ又ハ保證金募キ受特區ヨリ其ノ多額ヲ要スル受特區ニ轉シタルトキハ必ス先ツ身元保證金ヲ納付ス

可キコトヲ命シタリ(第四十九頁以下參照) (ニ)職印ニ關スル義務 公證書ハ嚴正ヲ維持スル爲メ公證人ハ其職務ニ著手スルニ先チ職印ヲ調印シ印鑑並ニ筆蹟ヲ管轄裁判所ニ届出テサル可カラス第五十三頁以下參照)

(ホ)見出帳ニ關スル義務 公證人ハ其取扱ニ係ル書類ヲ明カニシ其作成ノ順序ヲ整正ナラシメ以テ管轄裁判所ノ監督ニ使ナラシムル爲メ見出帳ヲ調製シテ之ニ法定ノ事項ヲ記載スルコトヲ要シ其記入前管轄裁判所ニ之ヲ差出シテ所長ノ官印ヲ受ケサル可カラス(第八十八頁以下參照) (ヘ)職務執行ノ義務 公證人ハ公正證書ヲ作成シ及其正本謄本ヲ付與スルコトヲ其職務トス從テ國家ニ對シ其職務ヲ執行スル義務アルト共ニ其執行ハ人民ノ囑託ヲ俟テ開始ス可キモノナルカ故ニ人民ニ對シテハ苟クモ依頼アレハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒絕スルコトヲ得サルモノトス 職務執行ヲ拒絕シ得可キ正當ナル理由ハ之ヲ分チテ三トス

(一) 公證人ノ身上ニ基ク拒絕理由
公證人ノ一身ニ關シ發生シタル事故ニシテ其繼續中ハ到底公證人ヲシテ職務ノ執行ニ堪ヘザラシムルモノアルトキハ總令人民ノ適法ナル依嘱アルモ之ヲ拒絕シテ然カモ何等ノ制裁ヲ受ケサルナリ此ノ如キ事故トハ疾病適法ナル不在重大ナル危險其他之ニ均シキ障礙ヲ言フ疾病中ハ事實上完全ニ公務ニ從事スルコトヲ得ス不在ハ絕對ニ執務ト相容サルモノナリ然レトモ公證人ハ一定ノ住居即役場ニ居住ス可キ義務アルカ故ニ拒絕證書ノ如キ支持區外ノ作成ヲ餘儀ナクセラルル事件又ハ兼任役場ニ於ケル執務等ノ原因ニ依リテ生シタル適法ノ不在ニ非サレハ正當ナル拒絕理由ト爲スコトヲ得サルナリ又區外作成ニ於テ其場所カ重大ナル危險ヲ伴フ場合ニハ依嘱ヲ拒ムモ制裁ヲ課セラルルコトナシ

(二) 依嘱當事者ノ身上ニ基ク拒絕理由
當事者ノ一身ニ付キ身體上又ハ法律上ノ囑託能力カ欠缺スル場合ニアリテハ之ヲ拒絕スルコトヲ得可シ例之年齢又ハ疾病ノ結果トシテ心神ノ發達完全ナ

ラス又ハ其不健全ナルモノノ如キヲ云フ幼年者精神病者耗弱者泥醉者等はナリ
(三) 證書ノ性質ニ基ク拒絕理由
公證人ハ汎ク民事ニ關シ公正證書ヲ作成シ得ルモノナリト雖モ法律又ハ命令ニ違背シタル事件ニ付テハ之ヲ作成スルコトヲ得ス民法ニ於テハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ハ之ヲ爲スモ何等ノ效果ヲ生セサル可キコトヲ規定スルカ故ニ依嘱事項ノ本旨ニシテ此ノ如キモノナラシメハ公證人ハ之ヲ拒絕スルニ正當ナル理由ヲ有スト云フ可シ
又公證人ハ自己親屬他人ノ代理人タルモノヲモ含ム依嘱當事者ノ一方トナレル事件ニ付テ公正證書ヲ作クルコトヲ得ス前記以外ノモノカ當事者タル事件ニ付テモ自己親屬立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ證書中ニ記入スルコトヲ得サルモノトス又公證人カ囑託人ノ爲メ訴訟代理人トナリ又ハナリタルコトアル事件ニ付テモ公正證書ヲ作成スルコトヲ得ス此ノ如キ事件ニアリテハ何レモ其囑託ヲ拒絕セサル可カラズ

依頼ヲ拒絕ス可キヤ否ヤハ公證人ノ判斷ニ依ルモノトス然レトモ囑託ヲ拒絕
シタル場合ニ於テ囑託人ハ其拒絕ノ理由ヲ知得セント欲スルトモ公證人ニ
對シ其理由書ノ交付ヲ請求スルヲ得可シ其理由書ノ交付ハ一ハ以テ拒絕理由
ノ開示タルト共ニ一ハ以テ抗告ノ基礎ヲ爲スモノタリ囑託人ハ理由書ニ依リ
拒絕カ正當ナラスト思料スルトモハ管轄地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得可
シ抗告アレハ當該裁判所ハ拒絕ノ當否ニ付キ最後ノ判斷ヲ與フルモノトス其
後ノ手續ニ付テハ第二編第八章ヲ參照ス可シ

(ト) 其助ノ義務
相隣公證人ハ其職務執行ニ付キ相互ニ之ヲ代理スル義務アリ故ニ公證人ニシ
テ已ムヲ得タル事故ノ爲メ職務ヲ行フ能ハサルトモハ近隣ノ公證人ニ代理ヲ
囑託スルコトヲ得可シ向ホ其他ニ於テ公證人ニ死亡免職等失格ノ原因アルニ
當リ裁判所カ近隣公證人ニ其事務ノ兼任ヲ命シ又役場ヲ廢止シタルトモハ近
隣公證人ニ書類ノ引繼ヲ命スル等皆此義務ニ基クモノナラシムハアラズ

(テ) 裁判所トノ關係ヨリ生スル義務

公證人ハ司法大臣ニ隸屬シ其職務ノ執行ニ關シテハ管轄控訴院長及地方裁判
所長ヲ監督ヲ受タルモノトス從テ此監督權ヨリ生スル諸種ノ命令ニ從ハサル
可カラズ

裁判所ノ提出命令ハ公證人ノ默秘義務ニ除外例ヲ爲スモノナルカ故ニ苟クモ
其命令アルトモハ保管ノ書類ヲ提出ス可キモノトス

公證人ノ職務執行ニ關シ異議アルモノハ管轄地方裁判所ニ抗告スルコトヲ得
可ク懲罰處分ニ付テ不服アルトモハ管轄控訴院ニ抗告ヲ申立タルコトヲ得可
シ而シテ是等ノ抗告ニ對シテ當該裁判所ノ判定ハ最後ノ判斷タルヲ以テ其公
證人ニ利益アルト否トヲ問ハス總テ之ニ服從ス可キハ論ヲ俟タズ

第四編 收入

第一章 收入ノ基本

公證人ハ證書ノ作成ヲ以テ其任務トス此職務ハ人民ノ囑託ニ基キテ之ヲ執行
スルモノニシテ其嚴正保持ノ點ニ於テ間接ニハ一般社會ニ利益ヲ與フト雖モ

其執行ハ主トシテ囑託人ノ特殊ナル利益ニ歸スルカ故ニ囑託人ヨリ其勞務ノ報酬トシテ手数料ヲ受ケ其職務執行ノ爲メ費用又ハ時日ヲ要スル場合ニ於テハ旅費又ハ日當ヲ受ケ或ハ印紙並ニ封紙ノ代價ヲ請求スルコトヲ得可シ此ノ如キ手数料旅費及日當等ハ公證人ノ主タル財源ヲ爲スモノニシテ茲ニ收入ト言フモ亦此範圍ニ外ナラス

公證人ハ公吏ナリ然ルニ法律カ之ニ囑託人ヨリ手数料等ヲ受クルコトヲ得セシメタルハ多少其理由ナカラサル可カラス今旅費日當ノ如キハ暫ク措キ手数料ニ付テ觀察スレハ主トシテ公證人タル地位證書作成ノ勞務囑託人ノ特別利益及公證人ノ責任等ニ基クモノト言ハサル可カラス

公證人ノ地位ヲ見ルニ法律カ之ニ與ヘタル職務ハ甚タ重大ナルモノニシテ其誠實ナル執行ニハ特別ノ智識ヲ要シ且ツ其生活ニハ相當ノ費用ヲ要ス然ルニ國家ヨリハ些少ノ報酬ヲ受クルコトナシ故ニ其地位ノ維持ト囑託人ヨリ受クル報酬トハ當然ナル關係ヲ有ス可キモノナリ（ブーレ氏第八六九號我法律ニ於テモ此關係ヲ認メ而カモ其員數ヲ制限シテ其收入ヲ確保セタリ）

第六款 假差押命令並ニ假處分命令ノ執行

強制執行ハ執行力アル正本ニ基テ之ヲナスモノナルヲ以テ之ヲナスコトヲ得ル迄ニハ多クノ時日ヲ要スル場合アリ故ニ強制執行ヲナスニ先テ豫メ之ヲ保全スル必要ナキニ非ス之レ假差押又ハ假處分ノ手續ヲ設ケタル所以ナリ

假差押トハ金錢債權又ハ之ニ代フルコトヲ得ヘキ請求ニツキ債務者ノ財産ニ對スル強制執行ヲ保全スルカ爲メ債務者ノ處分ヲ制限スルヲ云ヒ假處分トハ係爭物ノ原狀ノ變更ニヨリ後日強制執行ヲナスコト能ハス又ハ之ヲナスニ著シキ困難ヲ生スル恐アル場合ニ於テ強制執行ヲ保全スルカ爲メ債務者ノ財産權又ハ其他ノ權利ヲ制限スルヲ云フ

（一）假差押命令ノ執行

假差押命令ノ執行中執達吏ノ關與スル所ノモノハ單ニ有體動產ノ場合ニ限リ不動產船舶及ヒ債權ニ付テハ執達吏ノ取扱ハヘキモノニ非ス而シテ執達吏カ

假差押ノ命令ニヨリ其執行ヲ債權者ヨリ委任セラレタルトキハ通常ノ民事ノ強制執行ノ手續ノ規定ニ從フテ之ヲ爲スヘキモノトス而シテ此事ニ付テハ既ニ先ニ説明シタルハ茲ニ重キテ説クノ要ナシ唯タ注意スヘキハ民事訴訟法第七百四十九條第二項ニ依リ假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタル日ヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノナルヲ以テ執達吏ハ其執行著手ノ際ニ此十四日ノ期間ヲ經過シタルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス而シテ若シ其假差押命令書ニ何品ヲ差押フヘシトノ明記ナキ時ハ債權者ノ請求並ニ其利息及ヒ費用ヲ満足セシムルニ足ル可キ丈ノ物ヲ差押フヘキモノトス

又假差押ハ其性質上債權ノ保全處分ニ過キサルモノナレハ強制執行ノ場合ノ如ク其差押金品ヲ直ニ處分スル事ヲ得ナルヲ勿論ナリ之レ民事訴訟法第七百五十條末項ノ規定アル所以ナリ故ニ執達吏ハ同條ノ規定ニ從ヒ其差押ヘタル金銭ハ之ヲ供託シ其差押物品ハ之ヲ就賣ニ付スルコトナク事件ノ完結ニ至ルマテ貯藏保存スルノ義務アリ然レトモ差押物力或ハ腐敗等ニヨリ其價額ヲ著

シテ減少スヘキ恐アルトキ又ハ家畜ノ如ク其保管貯藏ニ不相應ナル費用ヲ要スル事ノ明ナル場合ニ於テハ之ヲ競賣ニ付セラレシコトヲ執行裁判所ニ申出テ且債權者ニ之ヲ告知シテ便宜ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルナリ

茲ニ一言注意スヘキハ執達吏職務細則第七十八條第一項ニ第一債權者ノ爲メ既ニ差押ヘタル物ニ付キ第二債權者ヨリ委任ヲ受クタル執達吏ハ更ニ之ヲ差押フルコトヲ得ス且假差押ニ係ル物ニ付テハ此限ニアラスト定ムルヨリ假差押ニ付テハ第一債權者ノ爲メ既ニ假差押ヘテ爲シタル物ニ對シ第二債權者ヨリノ委任ニヨリ執達吏カ更ニ假差押ヲ爲シ得ルカ如ク解スルハ誤リニテ同條ノ意味ハ先ニ假差押ヲナシタル物ニ對シ假ニ本差押ヲ爲スコトヲ得ト云フニ過キス元來假差押ハ先ニ述ヘタル如ク強制執行ヲ保全スル目的トスルモノナレハ一度假差押ヲナシタル物ニ付テハ再度ノ假差押ヲ爲スノ必要存セサルナリ

(四)假處分命令ノ執行 民事訴訟法第七百五十七條以下ニ規定シタ

ル所ヲ除ク外ハ總テ假差押ノ手續ヲ準用スヘキモノトシテ而シテ同法第七百五十七條以下ノ事項ハ裁判所ノ行爲ニ屬スルモノナルカ故ニ執達吏ハ唯ク假差押ノ手續ト同様ノ手續ニヨリ一意其命令ノ趣旨ニ從ヒ右處分ノ執行手續ヲナスヘキモノナリ

第七款 裁判上ノ供託

供託ヲ分テテ裁判所ニ關係セスシテ爲ス供託例ヘハ民法第四百九十四條、商法第二百六十八條ノ場合ト裁判所ニ關係シタナス供託トニ分ツ事ヲ得而シテ執達吏ノ干與スヘキ供託ハ裁判所ニ關係シタナス供託ノ場合ニ限ラル
裁判上ノ供託ハ總テ法律ニ規定シタル場合ニ限ルモノナリ而シテ法律ニ規定シタル場合ニハ必ラス金錢若クハ有價證券ニヨリ供託法ノ規定ニ從ヒ執達吏之ヲ取扱フヘキモノトス而シテ執達吏ハ法律ノ規定ニヨリ供託ヲナスヘキ場合ニハ差押物又ハ賣得金ヲ債權者ニ引渡サス之レヲ供託所即チ金庫ニ保管セシメサルヘカラス今此ノ如キ裁判上ノ供託ヲ爲スヘキ場合ヲ舉クレハ左ノ如

シ即チ

(一) 保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シ強制執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキ(民事訴訟法第五〇〇條、第五二條、第五四七條、第五七四條、第七四七條、第七五九條)

(二) 賣得金ヲ裁判所ニ於テ配當スヘキ時民事訴訟法第五九三條、第六二一條、第六二六條等)

(三) 裁判所ヨリ供託ヲ命シタルトキ
以上三箇ノ場合中第二ノ場合ハ法律ニ明文ナキモ特ニ裁判所ヨリ供託ヲ命セラレタル場合ナリ又第二ノ場合ニ於テハ賣得金配當ノ爲メ一切ノ書類ヲ取經テ其事情ヲ管轄裁判所ニ届ケ出テサルヘカラス民事訴訟法第五九三條、第六二一條此事情届書ニ添付スヘキ一切ノ書類トハ執行ニ關スル債務名義ノ證差押調査供託ニ關スル證書並ニ其他執行手續ニ關スル書類特ニ差押及ヒ轉付ノ命令等ヲ包含ス

第三章 刑事事件ノ執行其他ノ事務ニ關スル執行

第一款 罰金、科料及ヒ過料ノ執行

刑事事件ノ執行中判決決定及ヒ命令ヲ以テ科シタル罰金、科料、過料ノ徵收ハ一般ニ民事訴訟法中金錢ノ債權ニ關スル強制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行スヘキモノナリ唯タ此執行ヲナスニ當リテハ民事事件ノ執行ニ於ケルカ如ク執行力アル債務名義ヲ要セス裁判所又ハ檢事ノ命令アルトキハ此レニヨリ直チニ執行ヲナスコトヲ得ルナリ刑事訴訟法第二〇條執達吏規則第三條即チ此命令ハ執行力アル判決ノ正本ト同様ニ看做スヘキモノナリ而シテ此處ニ云フ命令トハ判決決定及ヒ命令ノアリタル其命令ヲ指シタルモノニアラスシテ判決決定、命令ヲ以テ罰金、科料、過料ヲ言渡シタル後之ヲ徵收スヘシトノ命令ノアリタル其命令ヲ云フナリ而シテ此執行ニ關シテ執達吏ノ爲ス可キ手續ハ民事訴訟法ノ強制執行ニ於ル規定ニ依テ行フモノナルヲ以テ其命令アルトキハ執行ヲ始ムル前ニ執行文ヲ送達スルノ必要ナシ即チ判決書ノ送達アルヤ否ヤニ拘ラス

命令アルトキハ直ニ執行ヲナスコトヲ得ルナリ此ノ如キ手續ニヨリ執達吏カ金錢ヲ取立テ又ハ財産ヲ差押ヘ之ヲ競賣シテ金錢ヲ得タルトキハ其受取證ヲ納人ニ交付スヘシ而シテ執達吏ハ右ノ金額ヲ完納シタルトキ又ハ無資力ニシテ之ヲ完納スルコト能ハサルトキ又ハ犯人死亡シタルトキ刑法附則第二十條ハ何レノ場合ニ於テモ其旨ヲ裁判所又ハ檢事局ニ報告シ且犯人管轄ノ區裁判所ニモ之ヲ届ケ出テザルヘカラス

第二款 賠償ノ執行

刑事訴訟ノ裁判ニ於テ私訴ノ裁判ヲ受ケ犯人ニ損害賠償ヲ言渡シタルトキハ民事訴訟法中金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行スヘキモノトス然レトモ此場合ハ前ノ罰金、科料又ハ過料ノ執行ノ場合ト異ナリ其執行ハ裁判所書記ノ付與スル執行力アル判決ノ正本ニ依リテ之ヲナスヘキモノナリ從テ前ノ場合トハ異ナリテ其執行ヲ始ムル前ニ其執行文ヲ送達スルコトヲ要ス

又此場合賠償ヲ求ムル者ハ其執行ヲ直接ニ執達吏ニ委任シ又ハ裁判所書記ヲ經テ之ヲ執達吏ニ委任スルコトヲ得ルナリ

第三款 沒收物、沒收金及ヒ追徴金ノ徵收

刑事訴訟法ニ於テ物品、金錢ヲ沒收シ又ハ金錢ヲ追徴スヘキコトヲ命シタルトキハ物品ニ付テハ民事訴訟法中特定動産ノ強制執行ノ規定ヲ適用シ金錢ニ付テハ民事訴訟法中金錢債權ノ強制執行ノ規定ニ從ヒテ之ヲ施行スヘキナリ而シテ此場合ハ罰金科料ノ執行ノ場合ト同シク執行文ノ送達ヲ要セス唯タ沒收追徴ヲ命シタル裁判所又ハ檢事局ノ命令ヲ以テ直チニ行フコトヲ得ルナリ

第四款 裁判費用ノ徵收

茲ニ裁判費用トハ民事刑事ヲ問ハス裁判費用ノ總稱ニシテ刑事ニ關スル費用(刑事訴訟法第一三四條第一四一條第三二〇條及ヒ刑法附則第四八條乃至第五三條及ヒ民事ニ關スル費用民事訴訟法第九九條ヲ徵收スルニハ民事訴訟法中

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ト同様ノ手續ヲ以テ義務者ヨリ追徴ス其追徴ニ付テハ前款ノ場合ト同シク判決ノ正本ヲ義務者ニ送達スルヲ要セス裁判所又檢事局ノ命令ニヨリ直ニ追徴スヘキモノトス但シ私訴ニ關スル費用ニ付テハ民事訴訟法ニ於ル訴訟費用ノ規定ニ從フヘキモノナリ故ニ此場合ニハ民事ノ訴訟費用ノ確定ノ決定ヲ必要ナリトス

第四章 行政裁判所其他特別裁判所ヨリノ囑託ニヨル強制執行

行政裁判法第二十一條ニ行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得ト規定ス而シテ同條ニ所謂通常裁判所トハ裁判所構成法第一條ニ掲ケタルモノナリ而シテ執行ニ關シテハ區裁判所之ヲ管轄スルモノナルヲ以テ執行ノ囑託ハ當然區裁判所ニ之ヲナスコトナルヘシ而シテ此囑託ヲ受ケタルトキハ區裁判所ハ此執行ヲ執達吏ニ命シ執達吏此命令ヲ受ケ執行ヲナストキハ先ニ述ヘタル民事事件ニ關スル強制執行ノ場合ト同一手續ニヨリ之カ施行

ヲナスヘキモノトス。執達吏ハ其強制執行ヲ完結シタルトキハ執行ノ成績ヲ其裁判所ニ届出ツヘキモノトス。又此執行ノ手數料及ヒ立替金ハ執達吏手數料規則ニヨリ徴收スルコトヲ得ルモノニシテ其受取前ハ行政裁判所ニ於テ豫納ヲ爲サシメアリ。其豫納金ヲ受取ルヘキヤ又ハ其執行費用ヲ負擔スヘキ責任ノアル者ヨリ受取ルヘキヤハ其裁判所ノ指揮ニ從ハサルヘカラス。行政裁判所トハ如何ナル裁判所ヲ云フヤ裁判所構成法第二條ニ但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此限ニアラスト云フ。特別裁判所ヲ意義スルモノナリ而シテ今日ニ於テ裁判所構成法二條ニ所謂特別裁判所ニ相當スヘキモノハ唯タ軍事裁判所タル軍法會議アルノミ故ニ此處ニ特別裁判所トアルハ軍事裁判所ヲ云フニ外ナラサルナリ。陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法第一條ニハ軍法會議私訴裁判ノ強制執行ハ兵營艦船若クハ軍事用廳舎ニ於テ行フ場合ヲ除ク外軍法會議ノ囑託ニ因リ

通常裁判所之ヲ行フト規定セリ。而シテ此規定ニ基キ囑託ヲ受クヘキ通常裁判所ハ前ニ述ヘタル場合ト同シク區裁判所タルコト明ナリ。區裁判所カ此囑託ヲ受ク其執行ヲ執達吏ニ命シタルトキハ執達吏ハ陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法及ヒ民事一般ノ強制執行法ニ準シテ之レカ取扱ヲナスヘキモノトス。而シテ其取扱ヲ終リタルトキ其成績ヲ其裁判所ニ届ケ出ツル事及ヒ其手數料立替金ハ執達吏手數料規則ニ依リ之ヲ受クヘキコトハ行政裁判所ヨリ囑託ニヨル執行ノ場合ト異ルコトナシ。次ニ競賣法ノ規定ニ基ク動産不動産ノ競賣ニ關シ執達吏ノ職務ニ付キ説明スルヲ順序トナセトモ此場合ハ先ニ述ヘタル民事事件ニ關スル強制執行中換價手續トシテ説明シタル強制競賣ノ場合ト大差ナク殊ニ本校特別講義ニ於テ既ニ吾孫子學士カ競賣法ニ關シテ講セラレ居レハ茲ニハ全ク之ヲ省略スルコトトナシタリ。

第五章 拒絕證書作成

商法第五百十四條ノ規定ニヨリ手形ニ對スル拒絶證書ノ作成ハ公證人又ハ執達吏之ヲナスヘキモノトス依テ商法上公證人若クハ執達吏以外ノ者ハ如何ナル場合ニ於テモ拒絶證書ヲ作成スル能ハス又此以外ノモノカ作成シタルトキハ法律上拒絶證書ト云フヲ得ス拒絶證書ノ作成ハ手形所持人ノ委任ニヨリ執達吏又ハ公證人之ヲナスヘキモノトス執達吏ハ拒絶證書作成ノ依頼アリタルトキハ執達吏規則第十條ノ一般規定ニヨリ之ヲ拒ムコトヲ得ス

次ニ進ンテ余輩ハ拒絶證書記載事項ニ付テ説明セントス

拒絶證書ニハ法律ノ定ムル事項ヲ記載スルヲ要ス其事項ハ商法第五百十五條(一)號乃至七號ニ規定セリ(約束手形ニ付テハ第五百二十九條ニヨリ第五百十五條第五百十五條ヲ準用スヘキコトヲ命シ小切手ニ付テハ第五百三十七條ニヨリ第五百十四條第五百十五條ヲ準用スヘキヲ命ス)而シテ此等ノ記載事項ノ中其一カ缺如シ又ハ不明ナルトキハ其拒絶證書ハ全然無効ナルヤ否ヤハ商法上ニ於テ論述スヘキ範圍ナリトス爰ニ一言ヲ費ヤサンニ同條ニハ「要ス」規定シ

其記載事項ノ缺ケタルカ又不明ナルトキハ之ヲ無効トナスモノノ如シ立法論トシテハ兎ニ角解釋論トシテハ此記載事項ノ欠缺ハ拒絶證書ヲ全然無効ナリト解スヘキカ如シ(東京控訴院明治三十四年十一月二十日判決此ノ如ク拒絶證書ノ記載事項ハ大切ナルモノナルヲ以テ執達吏ハ之ヲ明確ニ記載スルヲ要ス而シテ商法第五百十五條ニ列舉スル記載事項ニ付テハ稍説明ヲ要スヘキモノアルヲ以テ之ヲ次ニ説明セン)(主トシテ爲替手形ニ付テ論ス約束手形小切手ノ場合ノ拒絶證書ノ記載事項亦之レニ準ス)

(一)爲替手形其謄本及ヒ補箋ニ記載シタル事項(商法第五百十五條第一號)此記載事項ヲ必要トスルハ拒絶セラレタル手形ト拒絶證書トノ關係ヲ明白ナラシムル爲ナリ故ニ其關係ニシテ疑惑ヲ生セサル以上ハ必スシモ悉ク原狀ノ儘ニ記載スルヲ要セス明治三十五年第六卷百四十六頁大審院判決録モ同趣旨ナリ)或ハ手形上ノ效力ヲ生スル事項ハ之ヲ記載スヘク然ラサルモノハ必スシモ記載スルヲ要セストナスアリ或ハ手形取引ニ關スル主要ナル事項ト手形取引ニ關セサル事項トヲ區別シ前者ハ之ヲ記載スヘク後者ハ之ヲ欠

クモ妨ケストナスアリ然レトモ執達吏カ拒絕證書ヲ作成スルニ當リテハ成ル可ク危險ヲ避ケ完全ニ其手形其謄本及ヒ補箋ニ記載シタル事項ヲ泄レナク其儘記載スルヲ安全トス然レトモ手形面ニ記入セル振出人ノ定メタル隨意ノ番號若クハ商業帳簿ニ引照スル爲メノ頁數ハ之ヲ寫取ラサルモ無効トナルモノニ非スト信ス

(二) 拒絕者又ハ被拒絕者ノ氏名又ハ商號(商法第五一五條第一號) 拒絕者トハ拒絕證書ニヨリテ證明スヘキ給付ノ請求ヲ受クヘキ者ヲ云ヒ被拒絕者トハ執達吏ニ拒絕證書ノ作成ヲ依頼シタル者ヲ云フ拒絕證書ニ是等ノ人名ヲ記載セシムルハ關係者ノ果シテ適當ノ者ナリシヤ否ヤ一見確知スルヲ得セシメンカ爲メナリ今此場合ヲ拒絕者ト被拒絕者ニ區別シ少シク説明セントス

(イ) 拒絕者ノ氏名又ハ商號 拒絕者ノ破産ニ陥リシ場合ニテモ拒絕者ハ破産管財人ニ非スシテ破産債務者ナリ拒絕者死亡ノ場合ニハ其營業所若クハ其人ノ死亡セシ住所又ハ居所ニテ死亡セシ故ニ面會スルヲ得サルコト

ヲ拒絕證書ニ記載スレハ足ルナリ但シ此場合相續人ヲ拒絕者トナスハ義務ニ非スト雖モ而モ之ヲ爲スモ差間ナキナリ

(ロ) 被拒絕者即チ依頼人 取立委任裏書ナル場合ニハ取立被裏書人ハ取立裏書人ノ名義ニテ拒絕證書ヲ作成セシムヘキコトハ猶ホ其他ノ代理人ノ

場合ニ於ルト異ルコトナシ

(三) 拒絕者ニ對シテ爲シタル請求ノ趣旨及ヒ拒絕者カ其請求ニ應セザリシコト又ハ拒絕者ニ面會スルコト能ハザリシ理由商法第五一五條第三號 此處ニ云フ拒絕者ト(二)ニ述ヘシ拒絕者トハ稍趣ヲ異ニスル事ヲ注意セサルヘカラス即チ(二)ノ場合ノ拒絕者ハ法人タルコトヲ得レトモ此場合ノ拒絕者ハ必ス自然人タルコトヲ要ス故ニ某銀行ニ對シテ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ請求セシニ云云ト記載スルモ無効ナリ尙本號ニ於テ注意スヘキハ面會スルコト能ハザリシ理由ノ正當ナル理由ナリシコトヲ要スルコト之レリ即チ其請求ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ完了シタルモ之ヲ爲スコト能ハザリシ旨ヲ明示セザルヘカラサルナリ

(四) 一定ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日(商法第五一五條第四號) 此處ニ云フ一定ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲナスコト能ハサリシ地トハ如何ナル地ヲ指示スルヤ余輩ハ他ノ場合ニ於ルカ如ク單ニ東京市京都市ト云フカ如ク地方自治團體ノ名稱ヲ以テ足レリト考フ(商法第四四二條等參照ノ結果而シテ如何ナル地方適當ノ地ナルヤニ付テハ本號ニハ直接ノ説明ヲ與ヘスト雖モ商法第四百四十五條第八號同第四百九十條等ハ間接ニ之ヲ定ム而シテ手形ニ記載セラレタル支拂地ハ絕對的ニ之ヲ守ル可キモノナリ其實際ノ支拂地ト異ルコトヲ知ルトキト雖亦同シ拒絕者ノ承諾アルモ此地ヲ變更スルヲ得ス唯同地内ノ場所ハ其承諾ヲ以テ改ムルコトヲ得ルノミ

(五) 拒絕者ノ營業所住所又ハ居所カ知レサル場合ニ於テ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲シタルコト(商法第五一五條第五號) 拒絕者ノ營業所住所又ハ居所ノ知レサル場合ニハ其地ノ官署又ハ公署ニ問合セ尙知レサルトキニ始メテ執達吏ハ其官署又ハ公署ニ於テ拒絕證書ヲ作ルコトヲ得ルナリ(商法第四四二條第二項故ニ此ノ如キ場合ニハ拒絕證書ニ問合セノ手續ヲ履ミタルコト

ヲ記載セサルヘカラス實際問合ヲナスモ之ヲ記載セサルトキハ拒絕證書ハ無効タルヘシ凡ソ拒絕證書ノ作成ニハ法定ノ場所ニテ之ヲ爲ス場合ト合意上ノ場所ニテ之ヲ爲ス場合トアリ法定ノ場所ハ本則トシテ拒絕者ノ營業所ナリ若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ニシテ營業所住所又ハ居所ノ知レサルトキハ作成者即チ執達吏ノ役場若クハ其地ノ官署又ハ公署ナリ(商法第四四二條第一項本文及第二項) 拒絕者ト被拒絕者ノ合意アリタルトキハ法定ノ場所以外ニ於テ行爲ヲナスコトヲ得之レヲ合意上ノ場所ト云フ今商法第五百十五條ニ關聯シテ先ツ法定ノ場所ヲ說キ次テ合意上ノ場所ニ及ハシ

(イ) 一定ノ請求ヲナシ及ヒ拒絕證書ヲ作成スヘキ法定ノ場所 此點ニ付テハ次ノ如ク分說セントス

(一) 拒絕者ノ營業所ニテ拒絕證書ヲ作成スル場合 營業所ノ何タルヤハ此處ニ説明セサルヘシ拒絕者破産ノ場合ニハ破産者ノ營業所カ未ダ全ク閉鎖セラレ居ラスシテ外見上舊時ノ態ヲ備フルトキハ尙其營業所ニテ請求ヲナスコトヲ得拒絕者死亡ノ場合ハ死亡以前ノ外狀ヲ具フルト

キハ從來ノ營業所ニテ爲スモ又ハ死者ノ私宅ニテ爲スモ可ナリ拒絕者カ無能力者トナリタル場合モ亦然リ以上ノ場合ニハ必スシモ相續人又ハ法定代理人ノ營業所ニ赴クヲ要セス商法第四百四十二條及ヒ第五百十五條ニ所謂營業所ハ拒絕者ノ現營業所タルヲ要ス現營業所ト手形記載ノ營業所ト異ル場合ニハ現營業所ニ赴クヲ要ス此事ハ商法商行為ノ通則ニハ明文アリ(商法第二百七十八條既ニ他人ノ營業所トナリタルカ若クハ住者ナキ舊營業所ニテ作成スル拒絕證書ハ無効ナリ營業所ニ拒絕者不在ナルトキハ其住所又ハ居所ニ赴クヲ要セス其場ニテ拒絕證書ヲ作成スルコトヲ得

(二)拒絕者ノ住所又ハ居所 商法第四百四十二條ニヨレハ手形ノ呈示及ヒ手形債權保全行使ノ行為ハ若シ營業所ナキトキニ始メテ住所又ハ居所ニ於テ之ヲナスヘキモノナリ(營業所ナキトキハ)トノ意義ハ手形面ニ營業所ノ記載ナキ場合ヲ指スモノニ非ス實際其營業所ナキトキヲ云フ而シテ其無キコトハ軌達吏カ自身ニテ又ハ他ヨリ聞知シテ確認セシヲ

以テ足レリトス可カラス必ラス相當ノ問合ヲナシ其事ヲ拒絕證書ニ記入ス可キコトハ商法第五百十五條五號ノ明言スル所ナリ住所又ハ居所ハ現在ノモノタルヲ要スコルトハ營業所ノ場合ト異ルコトナシ(三)軌達吏役場又ハ問合ヲ爲シタル官署又ハ公署商法第四四二條二項ニ是等ノ場所ニテ有效ニ拒絕證書ヲ作成シ得ルニハ左ノ二條件ヲ具備スルコトヲ要ス

(イ)拒絕者ノ營業所住所又ハ居所カ知レサルコト

(ロ)其他ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲シタルコト

是レナリ此ノ如キ場合ニ作成スル拒絕證書ヲ問合セ拒絕證書ト云フ官署及ヒ公署ノ意義ハ極メテ不明ナリ或ハ官署トハ警察署ヲ云ヒ公署トハ市町村役場ヲ云フト論スルモノアリト雖モ然レトモ論者ハ何故ニ商業登記ヲ爲ス區裁判所ハ之ヲ商法第四百四十二條及第五百十五條第五號ノ官署ト爲ササルヤニ付テハ辯解ノ辭ナカルヘシ故ニ此場合ハ其地ノ區裁判所ヲモ之ヲ含ムモノト解セサルヘカラス

(ロ) 一定ノ請求ヲナシ又ハ拒絕證書ヲ作成ス可キ合意上ノ場所 之ニ付テハ次ノ云ニ關聯シテ説明スルヲ便トス

(六) 法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者カ之ヲ承諾シタルコト(商法第五一五條第五號) 商法第四百四十二條第一項但書ニヨレハ利害關係者ノ承諾アルトキハ法定以外ノ場所ニテ拒絕證書ヲ作ルコトヲ得例ヘハ取引所ニ於テ又ハ拒絕者ノ恰カモ出席シ居レル會社ノ總會ノ會場ニ於テ又ハ其人カ取締役トシテ執務シ居ル事務所ニ於テスルカ如シ此承諾ハ其他ノ債務者全體ニ效テ及スヘキモノタルコト論ヲ待タス又其承諾ハ默示シテ之ヲ與フルモ可ナリ例ヘハ異議ヲ述ヘスシテ呈示ヲ受ケタルトキノ如シ明治三十五年一月二十日東京地方裁判所判決ニ注意スヘキハ承諾ハ獨リ場所ノ變更ニ付テ之ヲ與フルコトヲ得ルモ地ノ變更ハ承諾アルモ無効ナルコト是ナリ

(七) 參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ種類及ヒ參加人並ニ被參加人ノ氏名又ハ商號(商法第五一五條第七號) 參加引受又ハ參加支拂アリタルトキ

ハ執達吏ハ其旨ヲ拒絕證書ニ記載セサルヘカラス(商法第五〇四條第五一二條故ニ之ニ伴フテ又參加ノ種類又ハ參加人ノ氏名又ハ商號ヲ記載スヘシト命スルナリ被參加人ノ氏名又ハ商號ヲモ記載要件トナシタルニ付テハ商法ノ議論トシテハ當ヲ缺クト云ハサルヘカラスト雖モ兎ニ角法ノ命スル所執達吏ハ常ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

(八) 執達吏ノ署名(商法第五一五條本文) 此署名モ勿論自署ヲ要スルモノナリシカ明治三十三年二月法律第十七號ヲ以テ商法中署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代ルコトヲ得ト規定シタルニヨリ此場合モ記名捺印ヲ以テ之ニ代ユルコトヲ許セリ

以上ヲ以テ拒絕證書記載要件ノ唯タ大略ヲ説明シタリ余輩ノ多少此點ニ付キ老婆の説明ヲナセシ所以ノモノハ執達吏ノ實務ニ從フ者カ動モスレハ拒絕證書作成ニ關シ種種ノ疑問ヲ有スルコトヲ耳ニシタルヲ以テ特ニ説明ヲ與ヘシ所以ナリ

余輩ハ以上ヲ以テ本講義ヲ終ハラントス願ミレハ杜撰ノ講義深ク自ラ恥テ厚

少讀者諸氏ニ謝セサルヲ得ス講ヲ始メシ以來俗務ニ忙殺セラレ研究意ノ如クナラス漸ク只貢ヲ塞ク事ヲ得タルノミ次學年以後稿ヲ改メ研究胆勉以テ他日稍我意ヲ充スモノヲ得ント欲スルノミ茲ニ終リニ臨ミテ諸氏ニ一言ノ謝辭ヲ述フルコト爾リ

（特別法講義録）

執達吏規則 終

法學士 岡

八 講述

執達吏規則

法政大學發行

執達吏規則目次

第一編 執達吏

第一章 執達吏制度ノ沿革	一
第二章 執達吏職務ノ範圍	一
第三章 執達吏ト相手方トノ關係	八
第四章 執達吏ノ資格	一六
第五章 執達吏職務執行ノ代理人	一九
第六章 執達吏ノ除斥	二二
第七章 執達吏ノ管轄區	二四
第八章 執達吏ノ權利義務	二六
第一款 執達吏ノ權利	二九
第一項 手数料ヲ受クルノ權	二九
第二項 立替金ノ辨濟ヲ受クルノ權	三三

第三項	補助金ヲ受クルノ權	三三
第四項	其他ノ權利	三四
第二款	執達吏ノ義務	三五
第一項	一定ノ場所ニ住所及役場ヲ定ルノ義務	三五
第二項	職務施行ノ義務	三六
第三項	保管物ニ對スル義務	三八
第四項	一般ノ證書作製ニ關スル義務	三九
第五項	其他ノ義務	四一
第九章	執達吏ノ手数料及ヒ立替金	四三
第一款	手数料	四五
第一項	書類送達ノ手数料	四五
第二項	有體物(有價證券ヲ含ム)ノ差押假差押ニ付 ヲノ手数料	四五
第三項	金錢ノ支拂ヲ目的トセル債權ニ付テノ強	四五

第四項	制執行ニ關シテノ手数料	四八
第五項	動產不動産及船舶ノ競賣ニ付テノ手数料	五〇
第六項	告知及催告ノ手数料	五三
第二款	拒絶證書作成ノ手数料	五三
第二款	立替金	五三
第十章	委任授受ノ體様	五五
第十一章	執達吏ノ職務時日	五七
第二編	執達吏ノ職務	五八
第一章	送達	五八
第一款	總說	五八
第二款	民事事件ニ關スル送達	六一
第三款	他ノ裁判事件ニ關スル送達	七一
第四款	裁判外ノ非訟事件ニ關スル送達	七三
第二章	民事事件ニ付テノ強制執行	七四

第一款 總説	七四
第一項 通則	七四
第二項 執達吏ノ債權者及ヒ債務者第三者トノ關係	八〇
第二款 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行	八五
第一項 動産ニ對スル強制執行	八五
第一號 有體動産ニ對スル強制執行	九一
第一 差押手續	九一
第二 換價手續	一〇七
第三 照査手續及ヒ配當要求	一二三
第四 辨濟ノ手續	一二八
第二號 債務者ノ有スル債權ニ對スル強制執行	一二九
第二項 不動産及船舶ニ對スル強制執行	一三四
第三款 金錢支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行	一三七

第四款 債權者ノ抵抗除去ニ關スル強制執行	一四二
第五款 證人勾引ニ關スル執行	一四三
第六款 假差押命令竝ニ假處分命令ノ執行	一四五
第七款 裁判上ノ供託	一四八
第三章 刑事事件執行其他ノ事務ニ關スル執行	一五〇

第一款 罰金、科料及ヒ過料ノ執行	一五〇
第二款 賠償ノ執行	一五一
第三款 沒收物沒收金及ヒ追徴金ノ徴收	一五一
第四款 裁判費用ノ徴收	一五二
第四章 行政裁判所其他特別裁判所ヨリノ囑託ニヨル強制執行	一五三
第五章 拒絶證書作成	一五五

執達吏規則目次

終

雜 報

○町村公共ノ事務及ヒ必要支出 町村制ニ所謂町村公共ノ事務及ヒ町村ノ必要ナル支出ノ意義ニ付キ行政裁判所ハ判決シテ曰ク「被告ニ於テ町村ハ公益事務處辨ノ目的ヲ以テ成立スルモノナレハ法令ノ範圍内ニ於テ其目的ヲ遂行スル爲諸般ノ事務ヲ處理スルハ當然ノ權能ニ屬ス町村農會ハ農會法ニ依リ設立セラレ其區域モ町村ノ區域ニ依ルモノナルカ故ニ町村力之ヲ其公益公益ト認メ助長發達セシムルカ爲之ニ補助ヲ與フルハ即チ町村ノ公共事務ナリ從テ其必要ノ費用ヲ村税トシテ賦課スルコトモ其權能ニ屬シ何等法令ニ違反スル所ナシト云フト雖町村制第二條ニ所謂町村公共ノ事務トハ町村ノ公益ニシテ町村自カラ當然處理スヘキ事務ヲ謂フモノナリ又町村ハ同制第八十八條ノ規定ニ依ルニアラサレハ支出ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ其必要ナル支出トハ即チ第二條ノ事務ニ必要ナル支出ヲ謂フモノニシテ本件補助ノ如キハ町村制第二條ノ町村公共事務ニアラス隨テ同制第八十八條ノ必要支出ニアラス故ニ

之ヲ村稅中ニ編入シテ賦課シタルハ違法ナリトス(行政裁判所明治三十六年
取消請求事件明治三十七
年五月三十日第一號宣告)

○版權法ニ依ル著作權ノ保護 舊版權法ニ於テハ新聞紙其他ノ定期刊行物
ニ掲載シタル記事ニ付キ禁轉載ノ制ナカリシヲ以テ此等ノ記事ニ其出處ヲ明
示シテ他ノ書籍雜誌等ニ轉載スルハ正當ナリヤ否ヤノ問題ニ對シ大審院ハ判
決シテ曰ク「著作權法第四十七條ニハ本法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物
ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有スト規定シアリ此規定ノ精神ハ著作權
法施行前ヨリ著作權ノ引續キ成立シ居ル著作物ニ對シテハ同法施行ノ日ヨリ
同法ニ規定セル方法即チ其第二章及第三章ニ於テ定メタル如ク僞作者等ヲシ
テ著作權者ニ對シ損害ヲ賠償セシメ又ハ刑罰ヲ受ケシムルコトニ依リテ保護
ヲ與フルニ在リテ決シテ此種ノ著作物ニ對シテ新法即著作權法ニ定メラレタ
ル條件ヲ具足スルニアラサレハ著作權法ノ保護ヲ與ヘスト云フニアラサルモ
ノトス則チ舊法ニ在リテハ版權者新法ニ所謂著作權者ハ其著作物ニ轉載ヲ禁
スル旨ヲ明記スヘキ條件ニ服セシメラレシテ之ヲ複製スルノ專權ヲ有セシ

カ新法モ亦其施行前ニ此等著作權ノ消滅セサル著作物ニ對シテハ別ニ新法ノ
定メタル條件即チ著作權者カ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記スルノ手續ヲ要求セス
シテ新法所定ノ範圍及程度ニ於ケル保護ヲ與フルコトヲ定メタルモノト解釋
スヘキモノトス何トナレハ著作權法第四十七條ニ謂ヘル本法ノ保護トハ其文
詞自體ニ依リ明カナルカ如ク單ニ新法ニ定メタル保護其モノヲ意味スルニ止
マリ其文詞中ニハ著作權ヲ得ルニ付新法ニ定メタル條件即チ轉載ヲ禁スル
旨ヲ明記スルコトヲ要求スルノ意義ヲ包含スルモノト云フヲ得サレハナリ而
シテ今同法第二十條ニ據レハ論旨ニ付テハ所論ノ如ク右ノ法條其モノニ於テ
ハ新法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物ニ對シテハ同法條ヲ適用セサル旨
ノ除外例ヲ特ニ定メタル廉ハ之レナシト雖モ要スルニ前段既ニ說示セル如ク
新法第四十七條ノ解釋上新法ノ趣旨ハ右等ノ著作物ニ對シテハ同法第二十條
ノ條件ヲ充タスコトヲ必要トセサルモノト論スルヲ相當トスルヲ以テ結局新
法ノ定メタル禁轉載云云ノ條件ハ新法施行以後ニ於ケル著作物ニ對シテノミ
之ヲ要求スルモノニシテ本件ノ如キ著作物ニ對シテハ全ク然ラサルモノト斷

定スヘキモノトス然ラハ則チ本件ノ著作物ニ禁轉載ノ明記ナリ又被告ハ該記事ノ出所ヲ明記シタルニモセヨ著作權者ノ承諾ヲ得シテ轉載シタル所爲ハ著作權法ノ違反ニ係ルヲ以テ原院カ該所爲ニ對シ同法第三十七條ニ當行セシハ相當ニシテ云云（大審院明治三十七年九月十一日第一五四二號著作權法違犯事件明治三十七年九月十九日第二號事務部宣告）

○懸賞討論會問題 本月二十日午後一時ヨリ本大學ニ於テ行フ懸賞討論會ノ問題左ノ如シ（勝本博士出題）

- 甲 乙 相 共 謀 シ
- 一、丙ノ實印ヲ盜用シテ丙ヨリ甲ニ對スルA B 二通ノ委任狀（Aハ公證人ニ提出スヘキモノBハ登記官吏ニ差出スヘキモノ）ヲ偽造シ
- 二、A 委任狀ニヨリ公證人ヲシテ丙カ乙ニ其所有地ヲ賣却シタル旨ノ公正證書ヲ作成セシメ
- 三、委任狀及ヒ右公正證書ニヨリ登記官吏ヲシテ右地所ノ登記ヲ變更シテ乙ノ所有ト爲サシメタリ
- 右甲乙ノ處分如何

校外生募集

本大學講義錄ハ大々的革新ヲ爲シ本月ヨリ新ニ三十八年度講義錄ヲ發行セリ從來本大學其他ノ法律學校ニ於テ發行スル講義錄ハ通計三年ヲ費シテ始メテ屢修シ了ルヲ通例トシ隨テ校外生ノ納ムル月謝モ亦多額ニ上ルハ已ムヲ得サル事ニ屬スト雖モ是レ甚タ遺憾トスル所ナリ本大學茲ニ見ル所アリ一方ニ於テ講義筆記中冗長ニ渉ル字句ヲ省キ又一方ニ於テハ每頁ノ字數ヲ殆ト倍加シ且毎號ノ紙數ヲ増加シ一年ヲ期シテ三年ノ課程全部ヲ完結スルコトトセルヲ以テ三分ノ一ノ期間ト費用トヲ以テ三年ノ課程ヲ卒業スルコトヲ得ヘシ而モ講義ノ内容、紙質其他ハ從來ノ講義錄ニ比シ優ルアルモ劣ルコトナシ入學志願者ハ此好機ヲ逸セス速ニ入學セラレシ

每月三四〇十一月第一號發行〇月謝三學年全部金五拾錢、一箇年分（定額）前納金五圓五拾錢

十一月

私立 法政大學



明治三十七年十一月八日印刷
明治三十七年十一月十一日發行
(定價金貳拾錢)

編輯者 東京市牛込區牛込北町十番地 萩原敬之

印刷者 東京市牛込區米町三番地 小宮山信好

印刷所 東京市芝區西久保明秀町十一番地 金子活版所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 法政大學

(電話番町百七十四番)

(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
(毎月四回、七日、八日、十八日、二十八日發行)